

366.6
Su677a



0037915000

2

0037915-000

366.6-Su677s

支那の労働運動

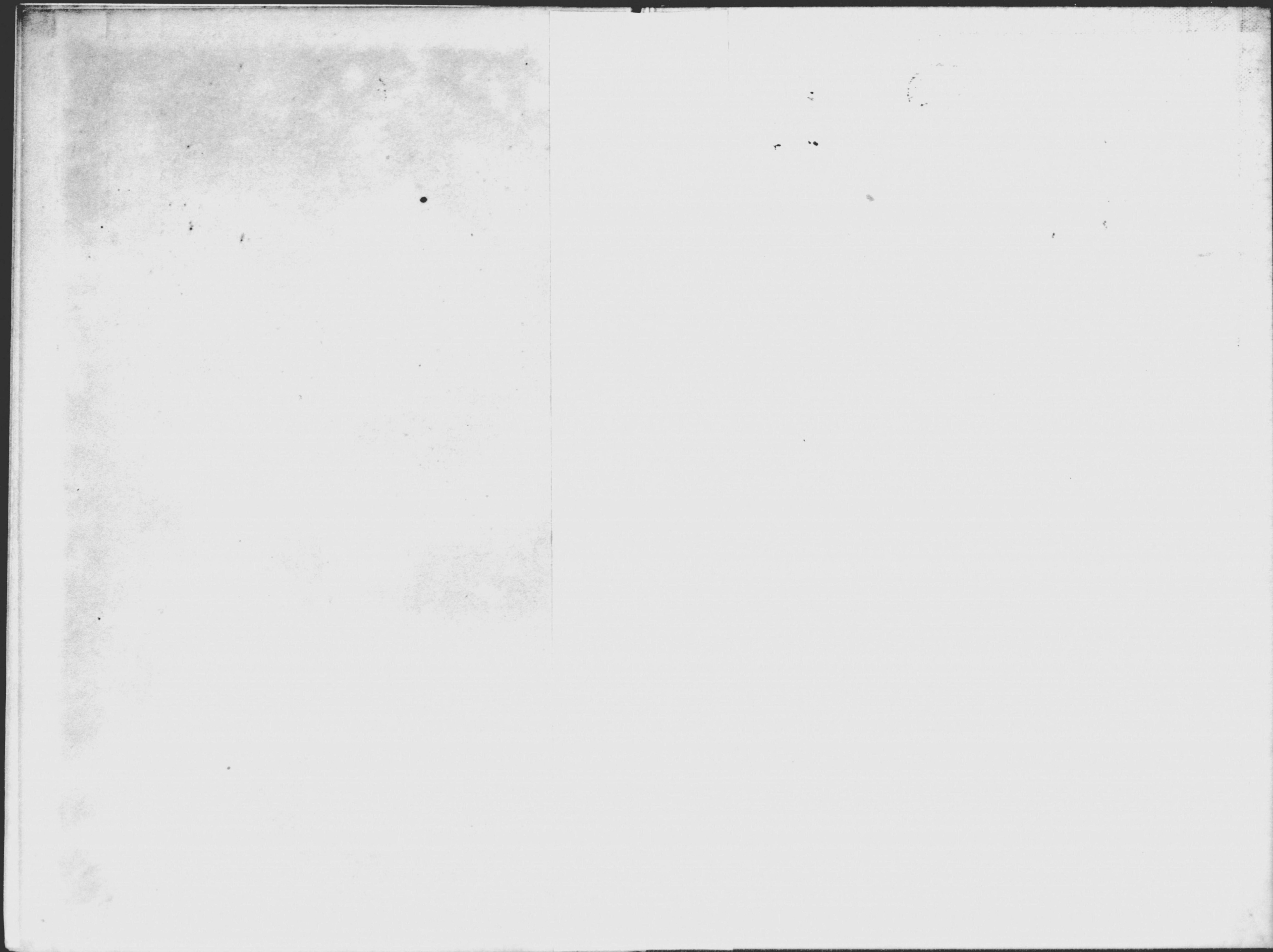
末光高義・著

南満州警察協会

1930

AGF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。



末光高義著

支那の労働運動

南滿洲警察協會



32189

此
以
題





藥 視 上

此
題



序

赤い夕日を浴びて、遼東の一角老鐵山の紫紺の影を心行くばかり打眺めつつ、思を靜かに東亞の大舞臺支那四百餘州に走らせる。古來猫の瞳の如に目まぐるしい覇者王者の交替、統治作用の態様の幾轉變、統制なき社會の組織、制度、次から次へと相踵ぐ戰禍、極度に紊るゝ治安、口に安民民生を唱へながらも、遂ぞ實現したことの無い支那、四億の民こそ、昔ながらのみじめな民衆ではある。

所謂支那研究者なるもの——秋の日足短く紫紺の老鐵暮
靄に包まれ瞬く閑にふえたきらつく——星の數ほどあれど
異口同音に、支那は謎の國！不可解なる哉其の國民性！と
嘆ずるのも無理からぬ事である。

かゝる國情が自然先づ何はさて措き、自らを守るに汲々
たらざるを得ない。自分を措いては他に何ものも恃みとす
るに足らない。遂に社會を以て己が爲に生活のよすがとは
するが、社會に對しては先づそんな處ぢやないと、思惟せ
ざるを得なくなつた。此の心持の幾百ゼネレーションを経
た結果が、支那人は個人的の力に於ては他に遜色はないと

見られるが、さて團體的乃至社會的の力に於ては、殆ど問
題とならなくならしめたのであらう。

かくの如く渾沌として歸一する處を知らざる状態とは云
へ、尙且自然に——或る種の社會力によりてであらう——ヒ
タ押しに押されて居ることはいなみ得ない事實である。之
が抑々他に類例を見ざる支那の特性である。

見よ！社會の組織なり制度なりは、決して劃一統制のあ
るものではない。法制の不完備なる——假に法制ありとす
るも實行力の匱乏せる——思惟的掣肘のなき社會の情勢を。
漫々と湛えた黄河の水、流れざるが如くにして川底は力强

く流れて海に濺いで居る。

労働問題、思想問題一として、此の範疇を出づるものではない。

第三次支那革命後、過去僅に一と昔を數うる年處の間に、目醒ましい活躍を續けてる、思想運動労働運動を見ると、どうしてもかく推想しなければならなくなる。

ポロチンの退去以來ソヴェート區域の擴大、遊撃隊の發展より、率いて去んぬる七月以來長江一帶の無産運動の跳梁拔扈は遂に「紅旗」をして「赤光普照せり」と嘯號せしめた。げに支那の労働運動は、殆ど何等の掣肘を受けざる

——特に出る杭は打たる、寧ろチヨン切られるが——自然の發展とも看取せられるほど特徴付けられてる。

支那は東亞に於ける大きな舞臺である。而も國內の情勢が此くの如しとすれば、世界中最も赤化の可能性に富めりと稱して第三インターの規を付けるのは當然である。我邦に於て思想的嵐を突破したりとして晏如たるを得ざるは瞭乎なことである。

假令固より我邦に於ける、此の種運動は支那の流を酌むものではないにせよ、蒙古風の如な大きな嵐が渦を巻いて、亞細亞の中原に押し寄せて來て居る。邦人は以て對岸の火

災と視て、拱手傍觀を許すことは斷じて出来ないではないか？

我末光君は永年關東廳高等警察課に在りて支那の研究、殊に斯種問題の研究に没頭せらるる篤學の士である。

公務の餘暇を以て纏めたる此の「支那の労働運動」こそは、最も眞摯なる態度と、正鵠を得たる見方を以て、赤裸々に労働運動を實寫したものである。

固々支那の労働運動に就いて記述したものは少ない。之位完備したものは、寡聞にして遂知らない。

各國に於ける労働運動殊に我國のそれを研究するには、

こよなき好資料であることを斷言する。思想問題労働問題を研究する同學の士は勿論労働運動を通じて、支那の國情なり、國民性なりを研究せらるゝ諸賢も亦と得難い良書たるに耻ぢない。是非に書架を飾られむことを推奨して止まない。

庚午仲秋

旅順白玉山麓にて

松田生誌

自序

年中動亂の絶へない支那で、労働運動だけは、最も短かい年月の間に全国的に統一されて、遂に國際的運動場裡に進出するまでに發展した。それが労働者自身の自覺に基いた運動でなかつたにしても、これに因つて受けた貴い訓練と、經驗とは、遂に支那國民の思想上に、不拔の劃期的變化を與へるに至つたのである。それだけ支那の労働運動は、他の國のそれと異なつた政治的、革命的、色彩を多分に加味された特性を有してゐるのである。即ち支那の民衆運動は、労働運動に依つて展開され、支那の革命運動は、亦民衆運動に依つて誘導支持されてゐるのである。

而してこの運動が、現在の封建制度より、自由民主主義に移らんとする、軍閥打破の思想と、外國の壓迫より脱れやうとする、國家解放運動即ち反帝國主義の思想と、この外に最も力強いマルキシズムの理論に基く、社會革命思想の浸潤とに依つて、労働運動はその本來の目的たる階級闘争の範圍を脱して、社會革命の

色彩を帯びて居ることは、彼の五卅事件の如き、長江一帯に於ける帝國主義の經濟破壊の如き、又は香港ボイコット等に依り對共クーデターとなつて、如實にこれを表現して居るのである。従て支那の労働運動は、單に勞資階級關係に於ける闘争そのものでなくて、共產主義の理論と其の戰術との下に、經濟闘争より、革命的政治闘争へと導かれたものである。然かもそれがソヴェートロシヤの支援と教導との下に於て、彼等の主義を實行せしめんとしたものであつたので、頗る急角度を以て進展するに至つたのである。従て支那の労働運動の發達は、國民の思想を甚敷く刺戟した。これを一般國民の思想的方面から論ずるときは、支那の労働運動の發展は即ち支那國民思想上の革命であつたとも觀ることが出來やう。

然れども滿洲の労働運動は、今日尙甚だ單純幼稚であつて、經濟的闘争の域を脱してゐない。何故滿洲の労働運動が、支那の労働運動から除外されて居るのであらうか？工業も滿鐵會社が中心となつて、邦人の投資に基く大工場等相當發展してゐる。炭礦も撫順が中心となつて各地に發展してゐる。南滿鐵道を中心に交通網も張られてゐる。大連港には毎日數十萬噸の船が出入して、埠頭等では毎

日數萬の労働者が働いてゐる。而かも赤露とは相接壤し、東亞交通の要衝にある此の滿洲に、果して革命的支那の労働思潮の侵入を防ぐ事が出來るであらうか？典型的軍閥專制の滿洲に於ても、張作霖が倒れて以來、南方との隔壁は取り除かれ、凡ての思潮は自由に流れ込んで來て、滿洲の支那人をして著しく民族的偏見觀念を憎惡せしめ、排外思想を煽りつつある爲め、漸く一般労働者をして階級的意識に眼覺させて來た。從來軍閥專制の壓迫と、帝國主義の威壓とに依つて、甚だ立ち遅れたこの滿洲の労働運動にも、必ずや時代思想の支援を受くる時の來ることを固く信ずるものである。

然も對支的に、最もデリケートな關係にあるこの滿洲！殊に労働問題は、決して單に勞資の問題として、將又對支那人労働者の問題として、簡單に片付けることの出來ぬ最も重要性を有して居ることは、南中支に於ける労働運動の狀況と、其の特質とを考ふるとき痛感することが出來る。之を國策上から觀ても、將又經濟的から觀ても、滿洲の問題が何れよりも、尙一層我對支外交上に、深刻なる影響を及すものなるかは明かである。彼の長江一帯に於ける外資經濟の破壊されたことを思ふ時、滿洲に於ても、決して永久的に樂觀を宥さぬ、狀勢に直面して

居ることを知らなくてはならぬ。

而してこれら支那の労働運動に關する文献は他にもないではないが、本書は著者自ら本問題を擔任して居る處より、警察官練習所高等科生に對し、労働問題講義の教材として、諸種の情報を綜合研究し、以て比較的正確と認むる資料に基いてその概要を著述したものである。

然し滿洲の労働問題に就ては、未だ何等の文献をもなかつたが幸ひ簡單ながらも本書に依つて、その大勢を知ることが出來得るであらう。固より本書は其の内容の正確と要點の摘述とに重きを置いた考へであるけれども、猶も杜撰の點のあることを恐縮じてゐる。叱正を得ば洵に幸である。

太田關東長官閣下より本書の爲めに題字を寄せられたことを茲に深謝する、併せて松田高等警察課長より序文を寄せられたことを感謝する。

又本書を上梓することを得たのは、滿洲警察協會の御盡力に依つて達成したものであることを茲に併せて謹んで敬意を表す。

昭和五年七月

於旅順 著者 識

目次

第一章 總說	一
第二章 支那の労働運動	四
第一節 發達の概況	四
第三章 労働組合運動	八
第一節 概論	八
第二節 組合發生より合同へ	一三
第三節 組合統一への運動	一九
第四節 左翼労働組合の彈壓	三八
第四章 労働争議	六九
第一節 初期時代の争議	六九

第二節 第二期時代の争議……………七九

第一 鐵道労働争議……………七九

第二 海員労働争議……………八六

第三 鑛山労働争議……………九〇

第四 工場労働争議……………九三

一 外國人工場争議……………九四

二 支那人工場争議……………一〇〇

第三節 第三期時代の争議……………一〇三

第一 五卅事件前後の争議……………一〇四

一 青島紡績罷業……………一〇四

二 上海の同盟罷業……………一〇七

第二 廣東對英ボイコット……………一一一

第四節 白色恐怖出現前の闘争……………一二〇

第一 前期に於ける闘争の繼續……………一二〇

第二 上海の暴動……………一二四

第五節 所謂白色恐怖……………一三五

第一 對共クーデター……………一三五

第二 左翼運動の反撥……………一三八

第六節 廣東の暴動と對露絶交……………一四三

第一 廣東ソヴェート政府の樹立……………一四三

第二 對露國交断絶……………一四四

第七節 對露絶交後に於ける労働運動……………一四七

第一 第二次北伐前後の闘争……………一四七

第二 最近に於ける労働運動……………一五五

第五章 労働立法……………一六六

第一節 概論……………一六六

第二節 勞働諸條例……………一六八

- 一 工會條例……………一六八
- 二 臨時工場條例……………一七六
- 三 修正勞資爭議處理法……………一七九
- 四 工場法……………一八五

第六章 滿洲の勞働運動……………一九五

第一節 概論……………一九五

第七章 勞働團體……………二〇一

第一節 概説……………二〇一

第二節 組合組織運動……………二〇四

- 第一 大連中華工學會……………二〇四
- 第二 大連中華團體有志聯合會……………二一八

- 第三 電鐵常務員會……………二二五
- 第四 全滿鐵傭員聯盟其の他の團體……………二二七
- 第五 吉黑郵務工會……………二二八
- 第六 遼寧郵務俱樂部……………二三〇

第八章 共產黨運動……………二三四

第一節 運動の経緯……………二三四

第二節 共產黨員檢舉……………二三七

- 第一 中國共產黨大連地方委員會……………二三七
- 第二 中國共產黨滿洲省委員會撫順支部……………二三九
- 第三 共產黨滿洲省委員會……………二四一

第九章 滿洲勞働界の狀況……………二四四

第一節 概説……………二四四

第二節	工場労働者	二四六
第三節	普通労働者	二四八
第四節	自由労働者	二四九
第十章	労働争議	二五一
第一節	第一期の争議	二五一
第二節	第二期の争議	二五八
第三節	第三期の争議	二七四

支那の労働運動

末光高義 著

第一章 總説

労働問題の起つたのは、所謂産業革命によつて、工業が大規模に行はれ、大量生産の工場組織の勃興に因つて、發生するに至つたものである。そこで大資本を集中した資本家たる、所謂資本家階級と、資本は有せぬが、其の數に於て多數を占めてゐる、労働者の階級とが、發生するに至つた。しかもその労働者が、人間としての平等に眼覺めて、この二つの階級を發生せしめた原因が、經濟組織の根本問題に、基因するものであることを知るに至つて、労働問題は社會問題として、最も重要性を有するものとなつて來たのである。

従て労働者が、家族的制度の産業に、技工として、或は徒弟として、技能の熟練と、職業の趣味とを以て、労働に親しんで居た時代には、労働問題は起らな

つた。然るに機械が發明され、交通が發達し、所謂産業革命によつて大工場組織や、新企業制度が行はるるに至つて、家族的制度は破壊され、労働者の多くは、動力に支配せられ、機械に束縛され、所謂機械従屬者たるの性質に、一變せしむるに至つた。其の結果は、專制と、壓迫なる觀念の發生を餘儀なくせしめて、切實に此の境遇を直感することとなつて、遂には解放を求むる念慮が、自然に湧き出て、其の結果産業上に於ける地位と、職業の不安固と、社會上に於ける日常生活の不安定とに依つて、本能的に憎惡偏見とを生じ、斯くて何時となく階級意識が培はれて來て、政治上に於ける自由平等主義と、經濟上に於ける貧富の著しい懸隔とが、意識的に、労働者の腦裡に刻まれて行つたのである。そこで自衛の必要からも、攻撃の動機からも、團體が組織せられて、労働運動が起り、階級闘争が生れて、社會主義と結び、時に外界壓迫と時代の風潮から、革命的色彩さへ表はるるに至つた。

斯くて労働運動は更に産業上に於ける運動より、政治上に於ける運動に移り或は公然に、政黨的色彩を帶び、社會主義運動と表裏して、更にその力を増し、斯

くて工業より農業へ、筋肉労働者より精神労働へ、労働階級より、無産階級へと企業の範圍も、労働の種類も、階級の境遇も漸次に擴大され、労働運動は社會運動となり、國內運動は國際運動にまで進んで、次第に其の勢力は擴大され、今や社會問題として最も重大にして最も重要なものとなつて來たのである。

そこで、労働運動が主として機械工業の勃興に伴つて、發達したものとすれば支那の現状は如何？未だ資本主義國でもなければ工業國とも云へぬ。然るに一躍労働運動が、國際的運動場裡に進出するまでに發展したことは、労働者自身の自覺と力に基いた運動でなかつたにしても、その運動に依つて、支那國民の思想上に大なる變化を與へたことは見逃すことは出來ぬ。聽て之が排外運動となつて現はれ、又は國家開放運動の手段として利用せらるることとなるのは明かなことである。殊に半殖民地たる支那の労働運動が、共產黨の指導と支援に基いて居るものなるが故に、單に其の地の産業發達上に大なる影響を及すのみならず、我國策上にも將又經濟的にも重大な關係にあることは勿論である。

第二章 支那の労働運動

第一節 發達の概況

支那に、労働運動の起つたのは、歐洲大戰直後であつた。大戰は支那の工業界に、著しく活氣を興へ、各都會地には、外國資本に依る大工場組織が、俄かに勃興を來した。それと同時に、戦後の新しい思想が、支那の労働界をも見舞つてこゝに上海香港等に労働争議の勃發を見るに至つたのである。大正八年上海に起つた、労働争議は早くも二十件に及んだが、然し此の初期の労働争議は各々労働者の失敗に終つた。其の主たる理由を掲ぐれば大略次の如くである。

- 一、各産業、或は職業部内の労働者には、永久的の組織がなかつた爲め、團結が極めて薄弱で、罷業破が出て、資本家の懐柔運動に軟化されたこと。
- 二、労働組合がない爲め、争議に對する訓練が出來ていなかつたのと、罷業資本金がない爲め、數日にして生活に窮し、資本家に屈服することとなつたこと。

三、各罷業は、何れも單獨に行はれ、他の産業労働者の、協同支援がなかつたこと。

四、失業者が多く、資本家は、容易に労働豫備軍を、招募し得たこと。

五、未だ、労働階級に對する、一般の同情が薄く、争議に際つても言論界、及一般の同情がなく、罷業者の志氣を失はしめたこと。

以上に依つて、先づ第一に、労働組合組織の必要を覺らしめ、各地に組合組織運動を起すと共に、一般労働者に對して階級的自覺を興ふることに、氣付いて來た。然し、當時作られた労働組合は、工頭(職工頭、把头)を基礎としたもので、指導者も、純然たる労働者でなかつた爲め、大した活動は出來なかつたばかりか、却つて労働運動の障礙をなした。即ち彼等は労働者仲間と云ふよりも、資本家の味方をなすに至つた爲め、後に至つて工頭制度は、却つて組合組織の、大きな障礙をなしたのである。

大正八、九年を支那に於ける労働運動の第一期とすれば、大正十、十一、十二年に亘る間を第二期となすことが出来る。此の期間は、實に罷業全盛期とも云ふ

べき時で、南中支那到る所に争議續出し、其の結果は、組合の組織となり、組合組織の結果は、又争議の誘發となり、罷業の性質も亦次第に變つて來たのである。即ち組合組織に依つて、争議は稍々統一され、同時に争議の範圍は著しく擴大され同情罷業が盛に行はれ、其の結果は、一地域の各種産業、又は職業組合全部に及び、従つて自然に組合の聯合を促し、争議の性質も、單なる賃銀問題のみでなく、労働時間の問題、組合承認、労働者の雇傭權獲得にまで進み、多少階級的觀念を注入されて來たと同時に、鐵道炭礦等には、共產黨の手がのびて、運動を始め、争議の地域も、上海、廣東地方より漸次、長江一帯に延び、遠く北支那にまで擴大されて來たが、運動は未だ初歩で、其の指導者の多くは、所謂労働運動者であつて、別に主義的背景も支援もなかつた。従て彼等の努力は、労働者の自覺を促進せしむるには足らず、組合の基礎は未だ貧弱で、労働資金も少ないといふ風なので争議の持久性が乏しかつたのである。斯くして、支那の労働運動は、愈々第三期に進み大に面目を改むるに至つた。

即ち支那全國に澎湃として起つて來た、國家解放の運動は、労働運動にも非常

な影響を與へ、労働運動の性質に、多量の對外的色彩を有せしむるに至つた。之と同時に、共產黨と、國民黨との、活躍に依つて、労働運動は、全く其の手に依つて、指導さるることとなつた。殊に共產黨一派の大飛躍は、労働運動を、自派の指す方向に引き込むことに努めた爲め、其の結果は、左の如き労働運動に革命を與へらるるに至つたのである。

一、從來不統一であつた、労働運動は、一定の方針の下に行はれ、組合は全國的に鐵路總工會と全國總工會との二大系統の下に統一され、運動の範圍は擴大され、全國に亘る、大罷業が行はるることとなつた。

二、労働運動は、共產黨の指導に依つて、反帝國主義運動及封建軍閥打破の運動と、結合された。

三、地域も一層擴大され、從來争議の國外に置かれて居た、滿洲及び京津地方にも波及し、殆ど支那全土に及ぶに至つた。

第三章 労働組合運動

第一節 概論

支那の労働組合運動は、特殊な過程を以て展開して来た。即ち此の組織運動は自然發生的な、組織運動の中から、漸次に擴大し、發達し、進歩したるものでなく、或る一つの最も力ある、指導機關の指揮と、教導との下に、發達したものであつて、隨て其の進歩なり展開なりは、一般的發展過程に見るが如き對立や、分化や、妥協と云つた形式を通過せず、直進的に、最も戰闘的活躍を以て大衆を引き付けて行くところの、左翼の理論と、其の戰術との下に、經濟闘争より、革命的、政治闘争への過程の中に、行はれたのである。其の結果は軍閥の專制と暴虐、及び帝國主義の段階に於ける外國資本の、侵略と搾取等に依つて最も革命的な、組織と意識とを興へたのであつた。從て其の組合組織運動は非常に新らしい歴史を持つて居るので、日本よりも稍々遅れて發達したのである。

然し支那には以前から、帮口制と云ふ一種の労働團體が組織されて居た。此の帮口制は、今日の労働組合とは其の本質が違つてゐるばかりでなく、目的とする範圍も労働者自身の問題に限られて居た。從て階級と云ふ觀念は全く含まれては居なかつたのである。處が漸次資本主義經濟組織の發達に伴なつて、必然的に起るべき、労働組合組織運動が、共產黨指導に依つて、最も短日月の間に、急速に南支から北支へ、都會から田舎へと、擴がつて行つたのであつた。茲に帮口制に就て、其の概略を述べて置くことにする。帮口制に手工帮、工人帮、苦力帮の三種の區別がある。

一、手工帮は、親方だけの結合であつて、弟子は加へない。其親方は自ら手工に従事するか又は小なりとも一つの企業家であるのである。この手工業に於ける舊式ギルドは總ての職業に亘つて一つの職業帮を組織して居る。その團結は非常に、鞏固で互に嚴重に領域を守つて相侵さない。從つて其の職業に従事せんとするには、親方に對して弟子入をして一人前の職工となるのである。この弟子入りを許されるものは多く親方の同郷人か、又は親戚であるのである。又一

度弟子入りをしたなれば三年五年は全く無報酬で働いて、途中に出ることを絶対に許さない。ギルドの崩壊原因は此の點から起つたものである。

二、工人帮は、同業と同郷の關係に依つて團結され、其の團結の分子は全然職工だけで、企業的色彩は全く帯びてゐないので、雇主とは間接の關係があるに過ぎない。各工場等で頭即職工頭があつて、其の配下の職工幾人かを支配して、團結を圖つてゐるものが之れである。今日尙この制度は各地の工場で多少變態であつても行はれてゐるやうである。

三、苦力帮は、所謂筋肉労働者の團結で、然かも同郷會の性質を帯びたものであつて各々同一資格を有つてゐる組合である。

苦力帮には、帮毎に一人の頭目(把頭又は苦力頭)があつて帮を代表してゐる。一帮の数は少なくとも十名以上で、多きは數百人に及ぶことがある。頭目の上に更に大頭目(大把頭又は大苦力頭)が居て多數の小頭目を指揮して居るのが普通である。この場合小頭目は配下の苦力と一所に仕事場に出るが、大頭目は泰然と座り込んで内外總ての取締又は交渉事に當るだけである。

苦力帮は必ず同郷人で組織して居る。滿洲に出稼に来る山東苦力も皆同郷の苦力頭に率られて行く、苦力は苦力頭の命には絶対に従はねばならぬ。又苦力頭は總て、苦力を代表する、従て苦力が直接外部との交渉にあたることはない、云はば働かさへすればよいのである。労働口も苦力頭が探して呉れるし、賃銀も苦力頭が受け取つて支拂つて呉れる。其のかわり苦力頭は苦力賃の何割かを引き去つて、自分の収入にする。若し苦力が病氣で仕事が出来ぬときは、生活費を支給し、癡疾者には扶助もすることがある。苦力帮の眞の任務は寧ろ對外問題にあるのである。第一は、繩張の保護である。この繩張の保護は非常に嚴重であつて、他帮の苦力の荷物運搬等一切許さない。

第二は、企業者や傭主との交渉である。之れは苦力頭が配下の苦力を代表して當るのである。第三は、労働口の斡旋である。従て苦力は自ら働き口を探すこととはなく總て苦力頭が仕事の都合で苦力の配給をするのである。

然して苦力帮の最も發達しているのは、埠頭場其他の運搬業苦力と鑛山苦力である。滿洲の各鑛山等では或程度まで、この苦力帮即ち把頭制を利用してゐる

やうである。企業家には便利なことは把頭さへ抱込んでゐれば、労働者との交渉事は易容で非常に便利であるが、一面には把頭が他の者に利用せられ、煽動に應じたとせば帮員全部が動くこととなるので、甚だ危険である。把頭制利用に就ては相當研究の必要がある。

この舊式ギルドの組織は、全く其の人格を無視した方法であるので、多少眼覺て来た徒弟は、之に満足することなく、遂に反抗運動を起すに至つたのである。また左右兩派に因つての労働組合の組織運動が起つた際、この舊式ギルド組織は却つて組合組織運動上障碍となつたので、極力崩壊に努めた。其の理由とする所は次の如くである。

一、帮口制は階級争闘の精神に反する。

雇主と、苦力や職工とは、直接の関係がない。會社に苦力頭を通して労働者を間接に雇入れるため、労働者と雇主との間に一の緩衝地帯が置かれて居るから組合組織上障碍である。

小工場では、其の同郷人を徒弟として採用し、職工に仕上ぐるため、師弟は同

郷の情義から争闘的な組合組織は困難である。

二、帮口制に郷土的色彩を帯びて居るため、労働組合の本義に反する。

郷土觀念の強いのは、労働者に限らぬ、支那人一般の通有性である。政治、商業等の團體も皆郷土を中心として造られて居る。

然るに、労働組合は本來郷土觀念を超越して、國境をも無視した國際的のもので、郷土的團結の存在は大に困るのである。

第二節 組合發生より合同へ

支那に所謂労働組合が出来たのは、大正八年五月、排日運動に従事して居た學生の一部が、廣東方面で労働組合組織運動を起して、二十六個の組合を設立せしめたのが、最初であると言はれて居る。而して其の組合組織の動機をなしたのは次の二つの直接原因があつた。

一、日貨排斥又は其の他の原因によつて、支那向の製品は成るべく、支那に於て造ると云ふ傾向となり、各地に紡績工場が激増して来たこと。

二、學生の排日運動は、遂に労働運動の指導となり、且つ共産黨の労働者組合組織運動を開始した事。

斯くて翌大正九年には、廣東に百三十の各種組合が組織せられ、漸次組合組織運動は、上海に及んで、早くも其の年には、紡績職工、其の他各種の労働者に依つて三十四の組合が成立した。尙其の年の春、正式に中國労働組合書記部が上海に設置されて、全國の労働組合を指導することとなつた。斯くて組合運動は次第に長江を逆つて漢口より四川に達し、北は直隸の開灤炭礦に迄で及んだ。斯くも僅かな期間中に、支那の労働組合組織が發展した理由は、當時労働運動が、全国的に大した壓迫を受けず、殆ど公開的に行はれて居たことと、一つは労働者日常の極端な生活苦が、戦後の世界的風潮の刺戟によつて、急激な經濟闘争が起つたことに依る外、今一つ見逃がすことの出来ぬ理由は、共産黨運動が功を奏したことであつた。共産黨は其のリーダーたる陳獨秀の指導によつて、各地に瀰發する労働争議や、學生の騒ぎに乗じて、大正九年五月頃より先づ第一に學生運動と、労働運動とに着手された。學生運動は、北京大學を中心として、全國學生の聯盟

を促して、無自覺な労働者又は農民の指導に向けられた。而して労働者に對しては全國的性質を重視して、鐵道と、鑛山とに中心を置き、先づ最初に着手したのが京漢鐵道と開灤炭礦従業労働者の組合組織運動であつたのである。斯くて共産派は更に海員組合の組織運動に手を延ばし、廣東を本部として、漸次各地に支部を設けて、海陸二大交通従業員組合組織が計畫された。大正十年の春には、唐山工會が成立して、京奉全線従業者の工會組織運動と、開灤炭礦労働者の組合組織運動との中心をなした。殊にこの鐵道工人組織は、非常なる進展を見、全國的産業組合組織の、第一聲を擧ぐる氣勢の下に、各鐵道共に之が準備を急ぐことゝなつたのである。

猶同年の秋、京漢線には、長辛店工人俱樂部が組織され、大正十一年の春には全線十六の俱樂部が完成して、八月鄭州に於て、京漢線總工會組織準備委員會が成立した。又武漢地方は、京漢、粵漢兩鐵道工會組織の、基點地であつて、時代運動の中心をなして居たが、漢口に於ては大正十一年に、大罷業が二件も引續いて發生したことに因つて、職業的小組合、例へば武漢機器總工會とか、揚子機器

廠工會とか、云つたものが無數に成立し、これと同時に漢冶萍總工會の成立を見るに至つた。この總工會は漢冶萍關係の鐵山、炭礦、製鐵所等の、各組合を聯合せしめたもので、其の所屬労働者は三萬餘人と稱せられて居たものである。

又湖南地方に於ては、總司令趙恆惕の自由政策の下に、一般の運動は公開的に行はれ、組織運動も擴大された爲め岳州路工會、新河鐵路工會、採萍路工會、安源工人俱樂部理髮工會、人力車工會、粵漢鐵路線工會等が成立し、相集まつて湖南工會聯合會を設立され、湖北に於ても同様組合組織運動が盛に行はれ、湖北全省工團聯合會を組織するに至つた。此の情勢は四川にも及んで重慶に、總工會が成立し、蕪湖、南京、杭州、蘇州一帶の工場も亦大體一樣な形勢の下に發展したのである。

上海は、支那工業の中心地であつて、自から多數の労働者を包擁して居るのみならず、民氣の盛んな土地である。従つて總有る社會運動は、殆ど上海を中心として計畫され、組合運動の如きも早くから起つて、大正十一年の暮には既に全國工界協進會、中國勞工同窓會、中華労働聯合會、機械工會、郵務友誼會、中華印

刷工學會、中華電気工會等五十團體が成立して居た。又上海全部の紡績總工會等も出来て居たけれども、素より未だ、充分な團體の力を統一した、組織は確立して居なかつたのである。

當時組合は、労働争議と、因果關係を以て増加し、組合は又、各地域毎に合同の氣勢を促されて居たものである。然れども、當時の労働運動は、不充分なる訓練と、經驗に依つて開始された。労働運動の指導方針の不統一、各地工作と相互の無聯絡、労働者の實狀に對する明瞭なる考察の缺如等を痛感するに至り、於茲第一の急務として、全國労働團體代表會議を召集し、運動の統一と、方針政策の確立と、中央機關の具體的設定とを行ふことに決し、大正十一年四月十日、上海の組合書記部より、全國労働團體に對し、五月一日より五日間廣東に於て紀念日を祝すると共に、全國労働者大會を開催す、各團體は代表一名宛を派遣せられ度し、との通知を發した。之れに依つて開かれた、第一回大會は、完全なる一個指導勢力下に於ける、組合の全國代表大會でなく、労働組合書記部主催の下に召集された、全國各派の組合會議であつた。隨て五日間の討議も整然たる順序なく統

一なく、寧ろ對立する、共產主義派と、工團主義派との激烈な争を以て終つた爲め、決定的な、根本戦術と、組織の具體化とを決定することが出來ず、再び全國大會を召集し、全國的中央機關の設立をなす一切の工作を、組合書記部に、依頼したに過ぎなかつたが、今一つ此の大會の最終に於て、全會一致、赤色労働組合インターナショナル参加を決議したことは、この大會に就て最も重要な歴史的事項であつた。

元來此の大會は、中國共產黨の指揮の下に開催されたものであつて、第一回中國社會主義青年團全國大會と、同時に同じ土地で開催されて、徹頭徹尾、共產黨指導下の労働組合組織が主眼となつて居たのである。斯くて大正十二年二月に京漢鐵路總工會が完成して、鄭州に於て、發會式を擧げる時になつて、突然禁止された爲め京漢全線の大罷業を起したが、其の結果は直隸軍閥の爲めに壓伏されて、數百の血を流し、數千の従業員は職を失ひ、慘憺たる敗北に終り、折角の共產黨の計畫も全く覆され其の後は軍閥官憲の壓迫が加はつて來た爲め、表面の運動は一時停止された形となつたのである。

第三節 組合統一への運動

中國共產黨は、大正十二年二月の京漢鐵道の、罷業に失敗して以來、労働者仲間には人氣を失ひ、軍閥や、官憲には、壓迫されて、活動が振はなくなつた。そこで共產黨では、其の活路を開く爲めに、二つの方法を探つた、一つは正式に第三インターナショナルに加入して、露西亞の援助を仰ぐと共に、一方では國民黨に割込んで國民黨を利用せんとしたのである。當時陳獨秀は、露國の共產黨に招かれ、モスコに赴き、レーニンと會見して、國民黨割込運動又は支那共產黨運動の方法等に就て秘策を授かり、重要使命を帯びて歸つて來た。そして大正十二年秋上海で、孫文とヨツフエとの會見となり、同年露國よりボロチンが廣東に派遣せられ、孫文と陳獨秀との提携を取りもち、ここに孫、陳の表面握手となり國共提携成り、愈々共產黨活動の本舞臺に入つたのである。

又労働運動は、京漢鐵道の罷業に對する武力壓迫に依つて、一時壓伏された形にあつたが、事實は之に反し労働者をして、より大なる團結を以て、壓迫に對抗

する必要を悟らしめ、共産派の指導に依つて、各線の鐵路工會の組織を見るに至つた。

恰もその頃より、國民黨内に於ては、左右兩派の内訌が始まつて居たが、國民黨首領の孫文が、北京で客死したのを機會に、遂に兩派は分裂するに至つた。それが爲めに右派の分子は國民黨より。逐次驅逐せられて、廣東政府は、中國共產黨とこれと提携する國民黨左派の、寄合世帯となつた。そこで左派の勢力は、國民黨を支配するまでに伸展し、遂に廣東政府の組織をもソヴェート露國に倣らつて委員制に改造し、漸次省政府から、縣郡村の自治制にまで、一貫して組織の改造が行はれ、同時に労働組織運動も、着々として進み、遂に全國的組織と、統一に成功することが出来るやうになつたのである。

此の左右兩派分裂の影響は、忽ち労働界に波及し、組合も亦左右兩派によつて二大系統に縦斷されることとなつた。其の後は兩派各労働組合を、自派の手に收めんとして盛んに擴張運動を試みられたが、右派に屬するものは上海に於ては、三十七團體の集合よりなる、上海工團聯合會あり、北京に於ては大正十四年六月

二十一日に成立した北京工會聯合會があつた。

共産派の指導に基く組合運動は、上海の本部に於て秘密裡に、支那全國十一の鐵道従業者を網羅する、全國鐵路總工會が計畫されつつあつた。恰度京漢鐵道大罷業の一週年紀念日に當る、大正十三年二月七日を以て成立大會が開かれて支那の労働運動界に、一大轉機を與へた、これと同時に共産黨では海員組合の組織に着手し、廣東を本部として各地に支部を設け、海員組合も完成した。茲に海陸二大交通従業者の組合が出来上つた。この二つの大きな組合は、中國共產黨の財産であり、武器であつて、後に出来た全國總工會も、この鐵道總工會が、中堅をなしてゐたので、或意味に於て、支那労働運動の本體をなすものとも言へる。

その組織の大要を知るために左に全國鐵路總工會簡章及海員工業聯合工會上海支部簡章を掲げて置く。

全國鐵路總工會簡章

第一條 本會ハ全國各鐵路工會ニ依リ組織サレ、全國鐵路總工會ト名ツク

第二條 本會ノ趣旨左ノ如シ

第三章 労働組合運動

- 一、生活ノ改良ト地位ノ向上及全體鐵路總會ノ福利ヲ謀ルニアリ
- 二、感情ノ聯絡、互助ヲ實行シ地方的ノ感情及職業別ニ依ル反目ヲ除去シ從業員相互ノ紛争ヲ排除解決シ工會ノ統一ヲ謀ル
- 三、知識ヲ向上シ労働者ノ階級的自覺ヲ促進ス
- 四、各鐵道從業員ノ組織セル各種總工會ヲ協助シ、並ニ全國各業ノ工會及世界ニ於ケル労働組合ト密接ノ關係ヲ結ブ
- 第三條 本會ノ地點ハ全國鐵路總工會常年代表大會又ハ執行委員會ニヨリコレヲ定ム
- 第四條 本會ハ毎年代表大會ヲ一回舉行ス若シ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ執行委員會ヨリ臨時代表大會ヲ召集スルコトヲ得
- 各路工會ヨリ代表大會ニ派遣スル代表ノ人數ハ執行委員會ヨリ比例法ヲ案ジテコレヲ決定ス
- 第五條 毎年代表大會ニヨリ執行委員ヲ選出シ執行委員會ハ每六箇月ニ一回開會ス又臨時會議ヲ開クコトヲ得
- 第六條 執行委員會ヨリ正委員長一名、副委員長三名ヲ互選ス任期ハ一年トス、但シ委員長重大事故ニヨリ職務ヲ執行スルコト能ハサルトキハ執行委員會ハコレヲ改選スルコトヲ得
- 第七條 執行委員ヨリ總幹事、秘書各一名並ニ各部主任及幹事等ヲ選任シテ幹事局ヲ組織ス、幹事局ニハ調査・庶務・組織・交際・財政・教育・宣傳等ノ部ヲ設ク執行委員會ハ顧問編輯等ノ人員ヲ聘請スルコトヲ得
- 第八條 代表大會ト執行委員會ハ人ヲ選任シテ各種ノ特別委員會ヲ組織スルコトヲ得
- 第九條 本會ノ代表大會ハ本會最高顧問トシ本會ノ豫算決算及一切ノ重大事件ヲ審議ス
- 第十條 代表大會ノ開會中ヲ除キ執行委員會ハ最高機關ニシテ其職權左ノ如シ

一、豫算案ノ決定

- 二、大會決議事項ノ執行
- 三、代表大會未決議ノ一切ノ問題ヲ議決ス
- 四、會費ノ徵收
- 五、對外交渉ノ處理
- 六、各鐵路工會ノ章程ト組織及其ノ行動ヲ審査シ且ツ實際各鐵道ノ組織ヲ促進ス
- 第十一條 執行委員會ノ開會時ヲ除キ、一切ノ重要事務ハ凡テ正副委員長及總幹部ノ會議ニヨリ決定ス、且代表大會ト執行委員會ノ決議案ヲ執行ス
- 第十二條 幹事局ハ執行委員會或ハ委員長總幹事會議ノ指揮ヲ受ケ、一切ノ事務ヲ處理ス、其職務細則ハ執行委員會自ラ之ヲ定ム
- 第十三條 本會ト各路工會トハ密接ノ聯絡ヲ保持スベク各路工會ハ時期ヲ定メ該會ノ業務進行ノ狀態ヲ本會ニ報告スベシ又本會ハ之ニ對シ各路工會ノ業務進行ニ指揮ヲ與フベシ
- 第十四條 若シ各鐵道ニ罷業等ノ事件ヲ起スニハ必ス先ヅ本會ノ同意ヲ得ベシ若シ本會ノ同意ヲ得タルトキハ本會及各鐵道ノ組合ハ凡テ之ヲ援助スヘシ、然シテ本會ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ舉行スルヲ得ス
- 第十五條 本會ノ經費ハ各路工會ヨリ徵收ス各路工會ハ毎月經常費收入百分ノ十ヲ本會ノ經常費トシテ納ムヘシ若シ特別ノ事情ニ遭遇シタルトキハ本會執行委員會ノ決議ヲ經テ各路工會ニ向ヒ特別經費ヲ徵收スルコトヲ得
- 第十六條 本簡章ハ代表大會ノ通過ヲ經タル後コレヲ宣布實行ス、又次回代表大會ニ於テ過半数ヲ以テ通過スレハ之ヲ修正スルコトヲ得

中華海員工業聯合總會上海支部簡章

- 第一條 本支部ハ香港總會ノ支部トシテ職員ヲ派遣シ上海方面ノ中華海員ヲ聯合シテ組織セルモノナリ
- 第二條 本支部一切ノ會務ノ處理ハ香港總會ノ定メタル章程條例ニ據ルベク、モシ別ニ細則ヲ設クル必要アレハ附近海員同人ノ決議ニ俟ツベシ但シ香港總會所計ノ章程條例ト牴觸セザルコト
- 第三條 本支部ノ主權ハ附近全體ノ會員ニ屬ス凡テノ會務處理ノ手續ハ香港總會ト連絡シ且其指導節制ヲ受ク
- 第四條 本支部ノ財政各種收支ハ香港總會及各支部ト融通處理シ互ニ區分ヲ設ケスモシ各地ニ於テ別ニ收支手續ヲ定ムルトキハ附近會員ノ決議ヲ經香港總會ノ同意ヲ得テ始メテ執行シ得ルモノトス
- 第五條 本支部ノ會務議案及收支數目會計等ニ關スル件ハ凡テ本支部ヨリ通告スルモノヲ除キ全部月報トシテ香港總會ニ報告シ月刊ニ載セ且ツ總冊ニ註記ス
- 第六條 本支部ノ各事務ニ當ル職員ノ任用及多寡ハ附近會員章程ニ據リ選舉シ、且香港總會ニ報告シテ其同意ヲ得ベシ、且各方面ノ會員トモ協議スベシ
- 第七條 本支部ノ事務員部長司庫核數員ハ附近海員ヨリ公舉シ或ハ總會ニ委任ス其他ノ各部職員ハ本支部ノ被選職員又ハ幹事ト香港總會トニテ打合セ適宜海員ノ中ヨリ聘任スル但シ支那人外國語ノ書記ニシテ同業中ニ適當ナル者ナキトキハ外部ヨリ雇入ル
- 第八條 本支部ノ事務員正部長司理及雇用各職員ハ本支部ノ定メタル執務時間及規則ニヨリ執務シ公務又ハ休暇ニヨリ非サレハ任意ニ職ヲ放ル、ヲ得ス選舉サレタル義務職員即チ司庫核數員等ハ執務時間ハ同シカラサルモ定時ニハ會ニ出勤シ執務セサルベカラス義務職員ノ車馬費ハ月末ニ支給ス
- 第九條 本支部ノ各職員ノ執務細則ハ本支部職員ト幹事ト別ニ定ム但シ總會ノ會綱ニ牴觸スベカラズ

- 第十條 本支部ノ重要公文又ハ會務ノ布告文書ニハ必ス正部長署名シ其責任ヲ明ニシ財政ノ收入等ノ布告ニハ司理司庫核數員章程ニ據リ連署セサレハ無効トス
- 第十一條 本支部カ會務ニ關シ會議ヲ召集スル場合ハ正部長ノ名ニ於テナス
- 第十二條 本支部ノ各職員ニシテ若シ事故アリ事務ヲ擔任シ得サルカ或ハ職責ヲ失スルモノハ會議ニ提出シ會員ノ公決ニヨリ去就ヲ決ス
- 第十三條 本規則ハ衆決ニヨリ修正シテ布告シ同時ニ効力ヲ發生ス若シ不適當ノ箇所ヲ發見シタル時ハ何時ニテモ大會ニ提出シ對論改修スルコトヲ得

大正十三年二月に、全國鐵路總工會が完成すると共に、労働組合の全國的一大系統を造るべく、全國労働組合の總聯合の機運に向つて來て、大正十四年五月一日メーデー紀念日に方り、廣東に於て第二回全國労働大會が開かれた。此の大會に於て中華海員工業聯合總會、漢冶萍總工會、全國鐵路總工會、廣東工人代表會等か、發起團體となつて、その年來の目的であつた中華全國總工會が完成した。此の大會は完全に左派を代表して居たものであるので、出來上つた全國總工會は共產黨の代表機關と云つた方が、適切であるかも知れない。

此の全國總工會の成立は、支那の労働運動過去の奮闘の成果であつて、これより支那労働運動の發展は、従前に比して、全然新しい時代を劃したのである。其

の結果全國労働者は。

一、系統的な中央機關をもち、全國労働者相互の行動に統一と聯絡とを得た。
二、階級的組合の闘争と、訓練との、確乎たる戦術を決定し、政治闘争に直進すると共に自己の階級的立場を中心として、國民革命への聯合戦線を具體化する事が出来たのである。

第二回全國労働大會は、最早第一回の如き各派組合會議ではなく、一指導機關と其の方策の下に統一された、全國組合の大會であつた。此の大會に於て、全國各組合は、具體的な中央機關たる、中華全國總工會を成立せしめて、上海の組合書記部の、歴史的任務を之に引繼いだ。そして一切の戦術—組織—經濟及び政治闘争—教育宣傳等を決定し、支那の革命の性質と、意義とを、明かにして労働階級の役割を決定したのである。殊に此の大會に於て、全國労働者は國民革命運動中に於ける、目前の工作を具體的に決定して、農民との協同並に其の支援の重要性を認め、且つ殖民地の革命展開の最大重要事項として、世界の労働階級との聯合を確認し、労働組合インターナショナルに加入したのである。當時次の如き大

會宣言を發して居る。

「全國の兄弟！吾人は今日、實に水深火熱の境遇に置かれて居る。生活程度日に高まるも賃銀はそれを維持するに足らない。さもなければ労働時間が非常に長く過度に疲労させられる。工場は勝手に規則を定めて工人を虐待するし、監工や把头頭からは殴打侮辱される。掠奪、賃銀停滯、失業の厄を時に免れたと思へば、今度は人夫徴發、苛税と言つた痛苦が之に代るのである。

かゝる事例を挙げれば全く限りがない。吾人は勿論かくの如き幾多の苦痛を受けながら、到底忍受に甘んずることは出来ぬ。奮起して生存を圖らざるを得ないのである。吾人の敵は、吾人の戦工を射殺した、吾人の代表を拘禁した、吾人の組合を封鎖した、吾人の罷業を摧殘した、吾人の兄弟を解雇した、そして吾人の行動を監視してゐる。一體何が故に、吾人はかくまで苦しまねばならぬか？吾人は先づ此の來る所以を明かに知らねばならぬ。

吾人が受苦の主な原因は、實に外國帝國主義の中國侵略に在る。然らば外國帝國主義は何故に中國を侵略するか？それは唯だ儲けんが爲めである。ところが、

その儲ける爲めには只だ三通りしか方法がない、即ち第一は鑛山、鐵道に根據を定めるとか原料品を買出すと云つた中國富源の盜奪である。第二は低廉な貨銀で中國労働者を虐使すると云つた勞役の搾取である。第三は本國貨物の販賣である。此の三種の方法は何れも中國人に非常な不利益を齎す、殊に労働者に對して甚だしい。

彼等の盜賊が既に中國人に不利なる以上、當然の結果として反抗を惹起する。然し各帝國主義は皆儲けることのみ考へてゐる故、從て此の間衝突は免かれぬことである。

かくて彼等は中國を脅迫して不平等條約を締結し軍艦や、軍隊を派遣し、租界、領事裁判權其他各種の特權を獲得した。その結果、彼等は中國に工場を設け、中國労働者を奴隸の如く使役し若し労働者が反抗すれば、直ちに特權を利用して壓迫する。

又外國貨物の夥しい輸入は、小商人手工業者及農民を失業に陥れる。これ等失業者の一部は賃銀奴隸として彼等に利用されるが大部分は兵士や土匪となる。

彼等は中國の領土及び中國人の勞苦の上に、自己の富を考へて居る。勿論各國の帝國主義者は凡てかくした富を考へて居るのである。斯くして彼等は第一に中國を瓜分して段々とその共同管理に移し、終には各自の中國侵略に進出しようと考えへて居るのである。彼等は何れも一派の軍閥を培植して彼等の勢力範圍を擴大し其の大富主義の實現を圖つて居る。だから彼等に培植された軍閥は中國人民を蹂躪する仇敵である。軍閥は帝國主義者の指使を受け特に労働者と民衆の勢力を摧殘しつゝある。

帝國主義は種々なる富を圖るのみならず、又種々なる方法を以て中國人民を愚弄して居る。その意圖は所謂洋奴を養成し造富の手先たらしめるにある。教育、學校、新聞社の開設等みなこれである。

最近帝國主義者とそれに利用されてゐる、軍閥官僚は、一部墮落労働者や反革命分子を買収し、労働者の名義を藉りて労働者の團體を破壊せんとしてゐるが、此の分子は労働者と決して兩立し得ぬ仇敵である。帝國主義者の造富を保證する手先である。

全國の兄弟！第二回全國労働大會は五月一日廣州に開かれた。全國百六十五の労働團體之に参加し、全國五十四萬餘の組織労働者を代表する二百七十七名の代表者が參會した。そして全會一致で『全國労働者は自己の組織の力で、自己の苦痛を解除し、自己の利益を獲得し、且つ全國人民の要求である、集會、結社、言論、出版の自由並びに全國労働者の要求である。組合組織と罷業の自由の爲め奮闘する』ことである。そして先づ第一に工人階級を壓迫搾取するとともに、労働者の自由を摧殘する仇敵を打倒さねばならぬことを認めた。然して大會及び全國労働者代表と、廣東に於ける二十一萬餘の組織農民及び數千の革命軍人は聯合し同時に正式に國際革命的無産階級の隊伍に加入した。蓋し中國大衆の解放には第一に進歩的無産階級に依り、廣大なる農民大衆を指導して行く必要がある。第二には世界無産階級と聯合して共同奮闘しなければ最後の勝利は得られぬからである。

全國の兄弟！大會は全國労働者の要求を満足せしめる爲め、戰鬥力を統一せしめる爲め、正式に中華全國總工會を組織した。爾今中華全國總工會は即ち全國勞

働者の奮闘を指揮する總機關である。全國の兄弟！全國の労働者は總て自覺した皆續々として團體を組織し出した。總て自己の利益の爲め奮闘することを知つて居る。今や中華全國總工會の組織も出來た。爾今全國労働者は中華全國總工會の旗下に一致團結し、無産農民と提携し、全國世界無産階級と聯合して共同奮闘しなくてはならぬ』

斯くて、第二回全國大會に依つて、支那の組合運動は、完全に過去の準備時代から離脱した。そして統一され、組織された。自己の勞力と實踐戰術とを以て、間もなく開展した革命高潮期に、偉大なる奮闘をなしたのである。大會には百六十五組合、五十四萬の組織労働者を代表する、二百七十八人の労働代表が列席した。第一回大會に於ける二十五萬の組織労働者の代表、百七十名に比較すれば、單に其の數だけでも、非常に進歩を示して居る。斯くて大會の主義及び諸決議は支那労働運動史上重要な、歴史をなすものである。

此の中華全國總工會が出來て一ヶ月後に、上海總工會が完成した。上海總工會は、大正十四年五卅事件に刺戟されて、成立を促進させたのであつて、彼等は非

常な活動力と、獨特の戦術とを發揮して、右派に屬する、上海工團聯合會の勢力圏内に侵入して、忽ち上海労働運動界の牛耳を執るに至つた。其の頃上海で總工會に屬する組合数は、百十七、會員數二十一萬八千八百五十九人と稱せられて居た。其の外に右派に屬する組合が二十餘りあつたが、左派に壓倒せられて、到底太刀打は出来なかつた。そして大正十四年の労働運動は殆ど完全に、總工會が中心となつて、動いて居たのである。

斯くて、全國總工會が出来、其の下に上海總工會が出来ると、此度は全國總工會の直轄機關である。各省の總工會の統一に着手した。然して其の年九月には、河南總工會が全國鐵路總工會の本部所在地である、河南の鄭州で成立大會を開いた。此の日には馮玉祥及び國民第二軍の代表者も列席した。此の河南總工會の成立は、支那労働運動の將來を、大に期待されて居たものである。何んとなれば、河南には隴海鐵道があり、鑛山紡績其他各種の産業が非常に發達して居るので鄭州は支那労働の方面から見ても、上海に次ぐべき地であるからである。

天津は、北支那工業の中心地であり又交通の要路である。従つて、夙くから組

合組織の氣運には向つて居たが、此の時までは一つも組合が出来て居なかつた。然るに大正十四年八月天津紡績罷業當時には、天津海員工會聯合會、埠頭工人會紡績總工會の印刷工人聯合會等が中心となり、天津にある二十餘組合に依つて天津總工會が出来た。又北京には大正十四年三月七日、印刷工の罷業後、總工會が出来た。此の二つの總工會は、北支那工業の中心地に於ける労働運動の中核をなすに至つたが、何様奉天軍閥の壓迫が相當烈しかつたので、充分な發展は出来なかつたのである。

斯くして出来た、各地の總工會の内容を充實させる爲め、各工場の組合は、同一職業毎に合同するに至つた。上海の例を引けば印刷工總工會、紡績工總工會と言つたようなものである。斯うして大體労働團體の、全國的統一が出来上つたのである。

又總工會の二大中堅の一つである、全國鐵道總工會は次第に其の内部的結束を充實して來た。大正十四年二月七日、鄭州に於て第二回全國鐵路代表會議が開かれた。此の大會には、南滿洲鐵道代表者として、大連中華工學會委員長傅景陽が

参列して居る。其の事は後に至つて判明したのであるが。既に其の頃から大連沙河口満鐵工場内の中華工學會は、中華鐵路總工會と充分な、聯絡と指導を受けて居たものと思はれる。大連中華工會に就ては第七章滿洲労働團體の部に於て詳説する。

斯の如く、京漢線方面の労働組合運動は、早くから發達して居たが、東部線津浦線方面の運動は、非常に遅れて發生した。然し山東の膠濟鐵路は、比較的早く膠濟鐵路總工會が組織され、大正十四年の青島紡績罷業の際には、四方鐵道工場にある組合が中心となつて働いたのである。所が今まで主要幹線であるにも拘らず總工會の成立を見なかつた、津浦線にも、大正十四年七月六日に、津浦鐵路總工會が成立し、八月九日には京綏鐵路總工會が出来、南方では滬寧鐵路、滬杭甬鐵路工會等が何れも成立宣言を發して、こゝに地方的の統一が完成さるゝに至つたのである。

中華全國總工會會則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ中華全國總工會ト定名ス
- 第二條 本會ハ全國労働者ヲ團結シ全國労働者ノ福利ヲ圖ルヲ目的トス
- 第三條 本會ハ本部ヲ 一置キ其他相當ノ地點ニハ辦事處ヲ置ク
- 第四條 國內ノ真正ノ労働組合ハ會員トナリ得ル凡ソ各種産業労働者ニシテ産業別全國的組織ヲ有スルモノ或ハ市縣省別ニ合同組織ヲ有スルモノハ該諸機關ヲ通ジテ會員トスル單獨組合ニテ直接本會ニ加入スル場合ニハ本會ノ審査ト認可トヲ要ス
- 第五條 本會ノ任務ハ次ノ如シ
- 一、全國労働者ノ組織ノ發展
 - 二、全國組合運動ノ統一ト密接ナ團結
 - 三、各組合ノ組織系統ノ整理
 - 四、各組合間又ハ組合内ノ爭議ノ仲裁
 - 五、各組合ノ行動ノ指揮
 - 六、全國労働者共同奮闘ノ目標指示
 - 七、全國労働者ヲ代表シ國際、労働者ト密接ナル結合ヲナス
 - 八、労働者ノ知識ノ向上ト相互ノ感情ノ聯絡
 - 九、各組合間ノ有効ナル相互ノ促進
 - 十、労働者ノ利益ノ保護、各種救済職業紹介等

第二章 組 織

第三章 労働組合運動

- 第六條 本會ノ最高機關ヲ全國代表大會トシ、毎年一回開催ス、但シ臨時大會ヲ召集スルコトヲ得ル同時ニ執行委員會ヲ召集シ、各労働團體派遣代表數ハ本會執行委員會ニ於テ按比決定ス
- 第七條 全國代表大會ハ執行委員二十五名ヲ選舉シ執行委員會ヲ組織ス、大會開催後ハ執行委員會ヲ以テ本會ノ最高機關トス
- 第八條 執行委員會ハ執行委員長一、副執行委員長三名ヲ互選スル委員長職務執行不能ノ時ハ執行委員會ハ新ニ之ヲ互選ス
- 第九條 執行委員會ノ下ニ幹事局ヲ設ケ、執行委員會ノ指揮監督ヲ受ケテ本會一切ノ事務ヲ辨セシム、ソノ人選ハ執行委員會ニテ決定ス
- 第十條 幹事局ヲ左ノ部及職務ニ分ツ
 - 一、組織部 本會所屬各組合ノ組織事項ヲ管掌シ、各地未組織労働者ヲ援助シテ組合ヲ組織セシム
 - 二、秘書部 本會一切ノ文書、統計報告ノ收發
 - 三、宣傳部 本部ノ宣傳教育事業ヲ管掌シ各組合教育方針ヲ指導スル
 - 四、經濟部 會計、庶務等ノ經濟事項
- 各部ニハ主任一、幹事若干ヲ置キ執行委員會ニ於テ適宜選任ス
- 第十一條 幹事局ニ總幹事一名ヲ置キ執行委員會中ノ一人之ヲ兼任スル總幹事ハ幹事局會議ノ主席トナル
- 第十二條 本會ハ會務ノ發展及其便宜ノ爲相當ノ地點ニ辦事處ヲ特設シ得ル、特別辦事處ニハソレソレ主任一、事務員若干ヲ置キ執行委員會ニ於テ適宜選任ス
- 第十三條 執行委員會ハ必要ニ應ジ、各種ノ特別委員會或ハ機關ヲ設立シ及ビ顧問、編輯員等ヲ聘用シ得ヘシ
- 第十四條 本會ノ執行委員會、幹事局及其他ノ機關ノ人員ハ毎年一回改選ス

第十五條 執行委員會、幹事局、特設辦事處、特別委員會及特設機關ノ會議及組織ノ細則ハ執行委員會ニ於テ別ニ定ム

第三章 公 約

- 第十六條 各組合ハ本會代表大會及執行委員會ノ議決及命令ヲ實行ス
- 第十七條 若シ一處又ハ一種ノ労働者ニ労働階級ノ闘争發生シタ時、各組合ハ本會ニ通告シタル後一致シテ聲援的、經濟的實力的ノ援助ヲ與ヘル
- 第十八條 同一産業及職業又ハ同一地域内ニ二箇以上ノ同性質ノ組合發生シタ時ハ、本會ノ勸告ニ從ヒ互讓シテ一個ノ組合トスル
- 第十九條 各組合間ニ爭議アル時ハ直チニ本會ニ訴ヘテ仲裁ヲ待チ互ニ攻撃スヘシ
- 第二十條 各組合ハ本會ニ不滿アルトキ、直チニ本會ニ抗議シ又ハ代表大會ニ訴フルコトヲ得ルモ直接本會ノ行動又ハ言論ヲ破壞スルカ如キ行爲アルヘカラス

第四章 經 費

- 第二十一條 各組合ハ毎月本會ニ會費ヲ納ムヘシ、但其額ハ各組合ニ於テ按比認定ス
- 第二十二條 必要ノ時ハ本會執行委員會ノ決議ヲ經テ各組合ヨリ特別費ヲ徵收スルコトヲ得
- 第二十三條 本會ノ經費ニ困難ヲ生シタル時ハ本會ヲ支援スル外部ノ同情者ニ義捐ヲ求ムルコトヲ得

第五章 附 則

- 第二十四條 本規則ハ全國代表大會通過後効力ヲ發生ス
- 第二十五條 本則中不適當ノ處アレハ全國代表大會ノ通過ヲ經テ修正ス

第四節 左翼労働組合の彈壓

「中國労働運動は、其の開始と共に政治的であると同時に革命的であつた。これは半殖民地たる中國の、労働運動の特色である。中國の重要産業は、大部分帝國主義或は國內軍閥の支配下にある。随つて労働運動の對象は、帝國主義者及び軍閥政府に對する反對であつて、民族運動と労働運動の共同政綱となつたのである。然も此の政綱は、兩運動の協同に於て始めて其の實現性を見出すのである」とは陳獨秀が第二回全國大會に於て、其の政治闘争決議案中に述べてゐる通り、この會議の根本精神を示すものである。第二回大會以後の支那労働運動は、大正十四年の五卅運動によつて代表された、革命高調期に於ける、労働階級の偉大なる。政治的進出に外ならぬ。組織工作、經濟闘争、宣傳、教育等、一切の工作は此の五卅運動に依つて、發展を遂げたのである、かくて大正十五年即一九二六年五月廣州に於て第三回全國労働大會の開催となつて、一層その結束を固くし、工農商學聯合委員會を組織し、罷工は民族闘争にも係るものであるが故に、各界聯合し

て勝利解決に奮闘することを誓つたのである。即ち此の全國労働大會に於て、労働者の最大任務は、民族革命運動中に於ける其の役割への、奮闘であることを明確にされたのであつた。そのときの宣言は次の如くである。

「全國工友諸君！第三次全國大會は五月一日廣州に於て開催された。参加者全國六百九十九團體(總會及分會)代表五百〇二人、これに代表さるる全國省組織労働者百二十四萬一千餘人、此大會で最も重要な問題は、五卅事件以來の全國工人運動の經驗と、工人運動の國民革命に於ける地位とを決算し、經濟上政治上一切の闘争の策略を規定するにある。

全國工友諸君！吾人今次の大會は五卅運動後の最初の大會である。即ち吾人工人階級が最も猛烈な政治闘争を経験した後の最初の大會である。吾人は知る、五卅運動は獨り中國民族の直接帝國主義に反抗せる一個偉大なる大運動たるに止まらず、中國工人階級全體が直接反帝國主義に参加し、並びに反帝國主義運動を領導した一個空前の闘争であることである。今次の闘争中吾人は少なからぬ生命を犠牲にし、無限の精神を犠牲にし、無限の痛苦を受けたが、然かも此の犠牲と痛

苦の中に、苦しい闘争の中に、幾多の経験と幾多の貴い教訓を得たのである。

第一に、事實上吾人工人階級は、國民革命運動中最も勇敢なる先鋒であることを證明した。

第二に、中國工人階級は獨り中國々民革命運動中の先鋒たるに止まらず、世界無産階級隊内の一有力なる支隊であること、即ち世界革命の有力なる支隊であることを認識した。

第三に、帝國主義の兇惡と帝國主義と反動軍閥との勾結に對し一層深刻なる認識を得た。

第四に、工人階級が起つて眞に帝國主義運動に参加し、充を指導した時、大資本家は階級利益と階級的偏見から聯合戦線を裏切ることを認識した。

第五に、農民は工人の反帝國主義反軍閥に對する眞の同盟者(廣東農民の表現は明かに之を示す)であることを認識した。

第六に、國際上眞に中國工人及中國々民革命を援助するものは只ソヴェートロシアと世界工人階級があるのみであることを認識した。

此の外吾人は組織上、工人の新組織を増大した。第二次大會代表は組織工人五十四萬で、今日は百二十四萬一千餘となつた、殊に幾多の政治的經濟的闘争の方法を學び得て居る。随つて大會は之等の貴重なる経験と教訓は吾人將來の闘争の最良の武器であり、吾人工人を解放に至らしめる指南であることを認める。

今日英日帝國主義と、其の手先奉直軍閥の反動勢力は、北方に於て勝利を得てゐる。即ち五卅運動の革命高調の時、又も反動勢力横行の高調が恢復したのである。一方に於て帝國主義は、種々な甘言を以て中國資産階級に讓歩し、中國資産階級と聯合し共同を以て中國工人階級を壓迫し、彼等が五卅運動後、喪失した威權を恢復し五卅運動後、吾人工人が獲得した力量を破壊せんと企てゝゐる。

全國工友諸君！帝國主義者の此種陰謀と進攻は單に中國革命の一般的危險たるに止まらず、吾人工人階級自身の危険である。吾人工人は起つて此種危険の重大性を認識しなくてはならぬ。故に吾人は政治上廣州政府の北伐を援助して北方反動勢力を肅清し、最低限度の集會、結社、言論、出版等の自由を要求し經濟上には最高限度の勞働時間、最低限度の賃銀の規定を要求しなくてはならぬ。

全國工友諸君！一致團結し中華全國總工會の旗の下に、五卅運動以來の貴重な經驗に基づき、全國の衆民と提携共同奮闘せよ！吾人の標語は。

- 一、擁護廣州國民政府之北伐！
- 一、打倒一切帝國主義及其走狗奉直軍閥！
- 一、敵に投降して革命を破壊する買辦階級を打倒せよ！
- 一、帝國主義及買辦資産階級の走狗たる工賊及び一切の反動派を打倒せよ！
- 一、擁護省港罷工！
- 一、全國工人大團結萬歲！
- 一、全國世界無産階級萬歲！

其の後の労働運動は、民族革命運動の聯合戰線に参加し、一方では益々組合組織を擴張し、上海に於ては上海總工會の指導に依つて、上海手工總工會は一九二六年十二月十日に成立し、手工労働者の組織運動が進行されて居る間に、一方では各商店員の、組合組織運動に着手されて、然かも手工總工會よりも、五日早く即ち十二月五日に上海店員總聯合會成立大會が開かれ、無産大衆組織運動は、容

易に上海總工會の手に依つてその傘下に抱擁することが出来たのである、斯くて國民革命軍の北進誘導を目的として上海未曾有のゼネラルストライキを起して、大にその威力を發揮した。その頃總工會には、武装した糾察隊三千餘名を有して居て、随分横暴を極めたので、實際は國民黨首脳部に於ても、彼等の行動には尠なからず、迷惑を感じ、昭和二年即一九二七年四月に這入るや、此の左翼たる總工會と、蔣介石との間には自然障壁を生じ、愈問題を惹起せんとする情勢を醗酵されて來た。即ち蔣介石は其の最後の表象として、總工會に對抗する爲めに、右派に屬する上海工會聯合總會なる大團結を形成せしめ、上海労働界を一手に糾合指導せむとして、四月二日正式に松滬警察廳の許可を得て、同三日から事務を開始せしむるに至つた。

國民黨内左右兩派の軋轢は、この上海總工會聯合總會の成立に依て一層其の度を加へ、四月八日には右派勢力を代表した、上海臨時政治委員會が出来て、共產黨系の上海市政府に對抗することとなつた。言ふまでもなく上海に於ける一切の軍事、政治、財政の處理をなすと同時に、上海に於ける黨務の指揮を執行する最

高機関たらしめむとするものであつた。

斯くて左右兩派の軋轢は日に増し激烈となつて、その衝突爆發は單に時日の問題となつて居たが、果せるかな四月十二日午前四時半、蔣介石は上海總工會其他共產系機關が汪精衛(汪兆銘)歡迎大會を開催し、民衆を煽動し、武装糾察隊を先鋒として、上海租界に暴動を起し之れを占領せんとする、秘密命令を發したとの噂を聞込むが早いか、機先を制して、北伐軍第二十六軍第二師及び右派に屬する工會所屬労働者を以て、果然クーデターを斷行して、上海總工會所屬糾察隊を一齊に襲撃し、總工會事務所たる湖洲會館を始め、商務印書館、商務俱樂部、三山會館、華商電車公司等各所に駐屯中の糾察隊を、完全に武装解除せしめて、完全に上海總工會を封鎖するに至つた。而して翌十三日には共產黨機關紙、平民日報を封鎖し、上海特別市臨時市政府に對しては、十四日軍隊を以て之れを包圍し、委員十數名を逮捕して之れを封鎖し、上海特別市臨時市黨部も、共產黨機關の名の下に之を封鎖の上改造することとし、茲に全く共產黨の勢力は、上海から掃盡されてしまつたのである。

時に北支北京では、上海のクーデターの一週間前即ち、四月六日張作霖の手に依つて、共產黨の根據たる、ソヴェート大使館の家宅搜索を斷行し、一網打盡に共產黨員數十名を逮捕し、四月二十八日、支那共產黨のリーダーの一人である、李大釗等同志二十人を、北京城外に於て銃殺に處した。

此のクーデターに依つて、右翼派首腦部に於ては、國民革命軍東路前敵總指揮部政治部にて、各種工會の具體的統一を計畫せられ、十三日午後前總工會の事務所であつた、湖洲會館に於て、上海工聯總會專門委員會が開催せられ、舊上海總工會及び工會聯合會を取消し、改めて上海工聯總會の名に於て、内部の改造と統一とを圖ることとなつたが、上海の工會は其の數多く、組織も亦複雑して居るので、その統一指揮には極めて不便な點が多いので、工聯總會の成立は時期尚早いとの見見が出て、結局一先づ此の名稱を用ゆる事を控へ、暫時工會組織統一委員會を設け専ら工會の統一指揮に當ることとなつた。

クーデターに依つて、各機關の封鎖を受けた共產黨は、其の活動に一頓挫を來したかの如く見へたが、事實は武漢政府の激勵に依つて、巧妙なる手段を以て、

同 交通労働組合代表共産系

ム リ

支那 國民政府労働部長

蘇 兆 徵

同 總工會執行委員

李 立 三

同

鄧 中 夏

同 國民黨主席

汪 精 衛

同 國民黨工人部長

陳 公 博

かくて一週間に於ける會議中、諸種の事項を討議したのであるが、其の決議及通告文の主なるものを揚ぐれば次の如くである。

一、ソヴェート聯邦を擁護し、平和を保持し帝國主義に反対す。

北京及倫敦に於けるソヴェート機關の搜索に反対し、誓つてソヴェートに反抗する中國軍閥及革命分子の陰謀を打破す。

二、帝國主義者の新戦争に反対す。

凡ての帝國主義國家は、太平洋上の利權を獲得せんとして抗争を續けつゝある中にも英、日、米の三國は日一日と緊張の度を加へ、新戦争の發生は免れざる

形勢にある。而して太平洋上の戦争は太平洋を化して世界の一大新屠殺場となすものである。此戦場の面積と包容する民衆とは、かの第一次帝國主義的世界大戰のそれよりも、遙かに大なるものである。茲に於て工人と工會との責任は更に重く一層努力を要するものである。吾等は此屠殺的戦禍を消滅し、全世界革命群衆を脅かす此等の災難を根絶すべきである。

三、帝國主義者の盜寇を中國より驅逐す。

帝國主義者は、三十餘隻の軍艦を長江に浮べて武漢を威嚇し、英代表は侮辱的公文を發して中國に宣戦せんとするものである。本會は之を中國内より驅逐する事を要する。

四、労働者の國際的統一。

國境種族を超越したる職工國際を組織し、全世界労働運動の統一を期す。

五、ゼネパ國際労働會議に反對す。

六、朝鮮臺灣の被壓迫民族の自立を援助す。

極東被壓迫民族中、朝鮮臺灣の民衆程大なる壓迫を受くるものはない。彼等は

自立を要求して闘争するも、日本帝國主義は一切の自由を奪去せり。本大會は此兩民族が既に群衆組織を發生せるを聞いて喜悅してゐる。太平洋労働會議は彼等の闘争に對し盡力援助せねばならぬ。

七、經濟計畫

大會の各代表團の報告により、太平洋沿岸各國の労働狀況を聴取し、左の經濟計畫を決定す。

- (1) 八時間労働
- (2) 一週間十二時間の繼續休息時間の支給
- (3) 社會保險制度の實施
- (4) 婦女の夜業禁止及分娩後八週間の休暇
- (5) 幼年工の賣買禁止及十四歳以下の幼年工の雇傭禁止
- (6) 全國、全世界の労働者は同様の労働に對しては同額の賃銀を得る事
- (7) 集會、組織、言論、罷業の自由
- (8) 體刑、罰金の廢止及工場製品を任意に賃銀に充當することの廢止

八、幼年工及青年工の援助

- (9) ファツシズム及工賊に反抗する爲労働者は糾察隊の組織權を有す
- (1) 十四歳以下の幼年工の雇傭を禁止す
- (2) 工場の兒童賣買を禁止し一切の兒童賣買機關を撤廢す
- (3) 同一の労働に對し同等の賃銀を支給する事。
- (4) 毎週四十二時間の繼續休息を與ふる事。
- (5) 毎年二週間の繼續休息を與ふる事、但し休憩期間中の賃銀は全額之を支給する事。
- (6) 幼年工、青年工の労働時間を毎日八時間とす。
- (7) 職員及工場主の青年工に對する不良待遇を禁止し、各種の處罰を廢止す。
- (8) 體刑を廢止す。
- (9) 國家及工場主は職業教育及技藝教育を行ふ可し。
- (10) 幼年工の工會加入條件は青年工と同様とす。

九、革命運動中の中國工會に對する決議。

- (1) 各工場は特に上海と廣東の工會に注意すべし、何とならば各地の反革命派は工會の領袖を惨殺し、ファツシズムを以て工友を強制し、一新工會を組織せんとしつつあるを以てなり、吾等は全力を舉げて之に反抗せざるべからず吾等は先づ既に反動派と連絡を取りつゝある労働者を奪回し、此等反動工會が未だ發達せざる間に其萌芽を刈り取るべきである。
- (2) 工人階級は既に革命運動中の主要分子となりたるも、未だ革命の基礎に立ち入るの大権は之を得ない、即工人階級は革命運動に参加したるのみにて、革命運動を指導する工會は未だない。故に中國工會は革命に参加するのみならず革命の基礎に立ち、工農組織の發展を妨害する者及社會的經濟的要求の實現を許さざる一切の政治的意圖を除去せねばならぬ。
- (3) 工會は政治に参加し革命軍隊に援助を與ふる一方、工人をして政府及び軍隊の援助機關として、彼等をして中國全土を民主化せしめ、農民階級の社會的要求に援助を與へ其の實限を期せしむべきである。
- (4) 工會は群衆を指導してより高き目標を追ひ革命の難關を突破し眞實の勞工

條例を制定すべし。

以上に、就て其の具體的方法を決定し、目的貫徹の爲に上海に秘書廳を設け、中國總工會代表二人、ソヴェート聯邦總工會代表二人、日、英、米、佛、各工會代表各一人を以て組織し、六ヶ月一回代表會議を開き機關紙として「太平洋工人」又は「太平洋労働大會公報」を發行することとした、其の當局の目的とするものは次の如くである。

- (1) 力量を團結して太平洋各國大戰の危機に反對す。
- (2) 帝國主義者の中國革命運動壓迫に反對す。
- (3) 太平洋各國の支配下に在る被壓迫民族に援助を與へ帝國主義者の束縛より脱離して眞正の自由を得せしむ。
- (4) 搾取者、壓迫者の被搾取者、被壓迫者相互間の離間策に反對し、凡ての國境と種族とに對する偏見に反對し融和を計る。
- (5) 太平洋各國被搾取階級の眞正なる聯合戦線を鞏固にし且維持す。
- (6) 被壓迫民族及被搾取階級の聯合戦線を組織し壓迫者及搾取者に反對す。

(7) 各國工會一致して一職工國際を組織す。

此外に「中國労働民衆に致す書」「太平洋及世界各國の工會並に工友に對する宣言」其他の公文を決議通過した。

而して一方全國總工會は、上海に於ける蔣介石のクーデターに依つて、全國的労働大會開催の必要を認め、事件後直に、全國各工會に對して、密かに召集の命令を發した。各地の代表は、嚴重な警戒網を潜つて、開場たる武漢に集まつて來た。六月十五日迄には、約四百名に達し、十八日大會豫備會を開き、主席團、政治委員會、經濟委員會、組織委員會、教育宣傳委員會、各地産業工會、決議審査委員會等各委員會の主席及び委員の選出があり、十九日午後三時から正式に第四回全國労働大會本會議が開催されたのである。參集した者は國民黨、國民政府、中國共產黨、中國共產主義青年團、第三國際、赤色職工國際及機關、各界、各團體代表等合計四百二十九名、其の外に傍聽者約三百名であつた。これ等は二百八十萬人の組織工人を代表するものであつて、全國的産業組織の工人代表として、鐵道二十六海員三十二、郵電十三が含まれてゐる、會議は六月二十八日迄、毎日

開かれたが最後の日に、ソヴェート職工總工會から本會に送つて來た——全世界無産階級聯合起來——と書いた滿地紅旗と、之れに添へてある檄文の宣讀があつて、滿場大に興奮し、革命的氣分に滿されつつ閉會の宣言をなした。

此大會開催の目的とするところは、その際發せられた左の宣言に依つて充分窺ひ知ることが出来る。然して開期十日間に於て、此等諸問題を逐一決議され、二十六日には、本會議の中心となる失業工人保障案が決議され、二十七日には中國工會組織問題、二十八日には幼年工問題が決議され、意味深き本會も茲に無事に閉會するに至つた。

第四回全國労働大會召集宣言

「蔣介石叛變し、買辦大資産階級が國民革命聯合戰線より退出して以來、中國革命運動は又も一新時期に轉入した。これは小資産階級農民及び吾人労働階級が共同して此の革命を負擔するといふ新时期への轉入である。因つて吾人労働階級の國民革命に於ける使命と責任とは一層其の重大性を加へ且つ緊迫して來た、

吾人は第一次労働大會後反軍閥の「二七慘案」の大奮闘を爲し、之れに因つて吾人

の組織は擴大し、鞏固となり、吾人の實力は一層充實し且つ一般民衆の上に影響した。又第二次大會の後には、世界を震動させた五卅運動、粵港罷業等相續いて發生し、労働者階級の反帝國主義運動直接運動は、全國一致の反帝國主義反軍閥の民族革命運動を喚起するに至つた、更に第三次大會後に至つては労働階級は依然として粵港罷工を繼續して帝國主義に重大な打撃を與へ、一切の反革命派を鎮壓し、國民政府と左派政權の基礎とを鞏固にし、北伐工作をして順調な進行をなさしめた。又北伐戦争開始と共に、吾人労働階級は全國一致を以て積極的に參加し敵の勢力範圍に於ても身を捨て、奮闘し消極破壊、積極影響の工作を爲した。

今日、革命局勢最も嚴勵なる時に及んで、全國最大多數の農友は既に起つて、自己の壓迫の爲め、土地問題と農村政權の問題とを解決せんとし、之に因り革命勢力は一層擴大し此の事は終に國民革命の中心問題となつた。同時に反革命勢力の兇焰も之に従つて増大し、大資本階級の背叛、帝國主義の北部進兵、武漢封塞封建餘孽蔣介石、李濟琛、楊森、夏斗寅、于學忠、張聯陞、許克祥等相續いて叛き、しきりに勞農大衆を屠殺し、全國的白色恐怖を實現したる上更に聯合一致を

以て。革命勢力に反攻し、中國々民革命の根本を斷たんとしてゐる。

北伐戰の勝利は依然として繼續展開してはゐるが、然し反革命の兇殘惡焰は之が爲めには決して消滅して居らず、一層擴大の傾向にある。その結果幾多の重大且切迫せる問題が一齊に吾人の面前に提出され、その急進なる解決が要求されて居る。

一、如何にして吾人は農民を援助して土豪劣紳を打倒し、農村の封建勢を剷除し土地問題を解決し、農村民主政權を建設し革命基礎を擴大し鞏固にすべきか？
二、如何にして吾人は全國革命民衆を指導し、勞農及び小資産階級の革命同盟を建設して、反革命勢力に反攻し、同時に政府を督勵して反革命勢力の一切を肅清し、立所に全國に滿々たるファツシスト白色恐怖の大屠殺を鎮壓し、國民革命の危機を救ふべきか？

三、如何にして世界無産階級と親密堅固な聯合を建設し、國際組合の組織行動の統一を促進し、特に太平洋各國労働者と聯合し、太平洋労働會議決議の策略により一致國際帝國主義に反抗し、その北方に於ける増兵と軍閥大資産階級の勾

結に反動して、國民政府に對する封塞政策を破壊し、ソヴェートロシヤへの進攻に反對して第二次世界戦を防止すべきか？

四、如何にして大資産階級の陰謀及び労働者に對する欺騙政策改良主義を摘破し經濟の壟斷、中小商人に對する壓迫と剝奪とに反對する、壓迫と剝奪とに反對し其反革命的叛逆行爲及び小資産階級に對する影響を鎮壓し、東南統治を推倒して完全なる政治領領導權を獲得し、國民革命を指導して一切の難關を經過し非資本主義への路に進むべきか？

五、如何にして中小商人及び一般小資産階級の覺悟を促進し、それ等をして彼等自身の破産を經濟的崩壊は大資産階級を帝國主義の壓迫及び經濟制度生産法進化の必然的結果であり、且つ過激な労働労働時間の延長、賃銀の低下等に於て労働者階級は資本家階級に對し非常な讓歩をして居るのであつて、彼等唯一の出路は、勞農一致聯合し大資産階級と帝國主義に進撃し、國民革命を完成するにあることを明瞭ならしむべきか？

六、如何にして各級政府機關に参加し、労働保護法及國立労働保險の實施を要求

し、又産業の管理参加及帝國主義の中國に於ける一切の重要なる産業の沒收を要求すべきか？

七、如何にして自身の組織を鞏固にし、組織系統を整頓し統一集中し、鞏固なる工場委員會を組織して國營産業の管理参加の準備を爲し、全國總工會及び全國産業總工會工作の不充分な點を補ひ、之をして充分に一切の工會を指導する責任を負はしめ、農村の手工業店員労働者及び北方労働者の組織と闘争とに注意し、労働者の實力を擴大して全國有組織労働者をして二百八十萬より更に一層大きな數に到達せしむべきか？

八、如何にして吾人の宣傳教育を深く且つ普遍的ならしめ更に全國民衆に影響せしめ、同時に労働者の武裝と普通労働者の軍事教育を擴大し、鞏固にし、且つ労働者を軍隊に入らしめ、或は兵士と密接親善な關係を結んで、兵士をして自身の階級的覺悟あらしめ以て鞏固なる勞兵聯合を建設すべきか？

以上を總覽するに、革命の局勢既に斯くの如く嚴勵なるものあり、吾人の責任更に斯の如く重大なるものあり、而して目前に解決を要する問題斯の如く多數あ

る、従つて第四次全國労働大會の開會は寸刻も猶豫し得ないものがある。且つ此次大會の責任と使命とは以前のいづれの大會よりも幾百倍の重要性がある。吾人労働階級は勿論衷心誠意を以て此次の大會に臨むべきであるが、尙吾人は更に全國各界及び全世界労働階級其他無産階級の同情者が深切なる指導と援助とを以て此大會を圓滿に成功せしめ並びに中國革命の過程に廣大深刻なる影響あらしめんことと希望する』

第四回全國労働大會宣言

『中華全國第四次労働大會の期間は、正に國內外政治非常嚴重の時に當つて居る帝國主義は中國革命に反對して、山東、上海、北京等に出兵し列國の軍艦は武漢を脅威して居る。之等は凡て直接武力を以て中國の革命に干渉するものであると同時に帝國主義列國は一致聯合して、ソヴェートロシアに反對して居るのである此の帝國主義の政策は根本より中國革命を消滅せしめ、且つその偉大なる友軍——世界革命中心のソヴェートロシアを征服せんとするものなるを物語るものである中國内部に於ても亦反革命勢力日に益々團聚し、吳佩孚は倒れても封建分子、資

産階級の代表蔣介石、李濟琛、許克祥等彼に代つて民衆及勞農——特に革命分子を壓迫屠殺し、且つ國民革命の看板の下に種々無恥なる、欺瞞政策と殘酷な屠殺政策とを行つて居る。現に幾多の省の労働運動は非常な彈壓を受けて居り、組合の組織は公開し得ないでゐる。國民政府の下に於ても武漢等の組合が公開的に存在し得る以外湖南、江西、河南も亦反動勢力彌漫し、労働運動は依然として新式專制政府の壓迫を受けて居る、斯る情形即ち反動勢力の勝利は武漢に於てすら發現して居る。要するに、中國各地の労働運動は嚴重なる白色恐怖の下に、いづれも組合の存在權の爲めに、依然奮闘しなければならぬ。

中國労働階級は中國革命の先鋒である。彼等は民族解放の事業の爲めに、既に莫大なる犠牲を拂つて居り。彼等は軍閥及帝國主義に反抗して力爭し、中國の獨立と自由との爲めには、如何なる階級よりも勇敢に進撃して居る。

一九二五年の五卅運動及び六二三沙基慘案中に、中國労働階級は全國民衆を指導して奮闘抗爭し、總同盟罷工を行つたが、特に廣東省港罷工は十六ヶ月に亘り帝國主義に巨大なる打撃を與へ、國民政府に莫大な援助を與へて居る。一九二七

年一月漢口労働大衆の英租界回収運動の實行あり、上海労働階級の三次に亘る孫傳芳、畢庶澄反對の暴動等、これ等は凡て中國新興のプロレタリアートが他の階級を領導して帝國主義及軍閥と闘つて居ることを物語るものである。労働階級が参加しなければ中國革命は其の勝利を得られないのである。中國労働階級は反帝國主義の闘争を徹底的に繼續しなければならぬと同時に、革命に叛いた中國の大資産階級及びその代表者蔣介石に斷乎たる反對をしなければならぬ。中華全國第四次労働大會は、中國労働階級の最近の革命階段に於ける最も重要な任務は、一切の反動勢力に反對し反革命の大資産階級の基礎を撲滅する一切の陰謀並びに労働運動を抑壓する一切の反動的企圖に反對することであると認定する。中國労働階級は必ずや全力を擧げて之等を打倒せなければならぬ。組合は労働大衆を指導し最も勇敢なる闘争を實行し、以て労働者組織の自由權利、労働者生活状態の改善等を力争しなければならぬ、今次大會は眞に労働者を保護し得る労働法、工場法等の實現を要求し、凡そ労働者の權利の剝奪を企圖し、大資産階級の労働者剝奪を助長する反動派に對しては、斷然たる宣戰を爲すものである。

中國労働階級は全力を以て、封建制度、豪紳政權を推翻する運動に参加し、平民の民權主義政治の實現を力求し、殊に農民の闘争を贊助する。今次の大會は、労働階級唯一の信頼し得る同盟軍は、幾億の被壓迫農民であると認定する。労働階級は農民の爲めに力争し、農民をして無代價で土地を取得せしめんとする労働法は、中國の最も革命的な階級である。彼等の間には一層堅固親密な關係を設定しなければならぬ。労働階級は帝國主義及大資産階級に對する闘争の過程に於て、着々革命的な都市の小資産階級と聯絡し、彼等をして革命の聯盟に加入せしめることを要する。此の勞農及小資産階級の中國民衆が若し果して團結し堅固な同盟軍を成立し得たならば如何なる突發的な困難があらうとも、中國革命の勝利は保證されるのである。

中國革命第四次労働大會は、三百餘萬の有組織労働者を代表し、農民の豪紳地主に對する闘争を贊助することを決定し、並びに革命的小資産階級と闘争の聯盟を結び、彼等をして勞農と共同奮闘し、帝國主義及新舊軍閥に反抗せしむることを決定した、今次大會は斷言する。如何なる犠牲を拂はふとも、中國プロレタリア

アクトは終始徹底的に闘争することを。中華全國第四次労働大會は、一切の労働大衆を號召し新しい闘争を準備する。労働者は當然知らねばならぬ、奮闘の中に於てのみ、組合の自由と生活改善の目的は達し得られるものであることを。如何なる革命政府も、労働者自發の努力がなければ、決して労働階級を解放する能力はない。只だ廣大な労働大衆の奮闘と下層大衆の團結猛進があつてのみ、始めて資産階級を讓歩せしめ、政府をして労働者の生活状態改善を實行せしめ得るのである。

中華全國第四次労働大會は、一切の組合は凡て迅速に堅固に自己の工作を發展し眞に大衆を領導して奮闘すべきであると認定する。内部に於ける工賊、改良派の肅清労働大衆との接近、新しい労働者領袖の擁立と奮闘能力の培養それ等は、最近期間労働運動の組織的な任務である。

中國全國第四次労働大會は、中國プロレタリアクトは必ず自己の革命運動に於ける領導的地位を保持し得ると確信する。

無産階級は當に自己の組合の周圍に團結し、無産階級政黨の周圍に團結し且つ

革命的農民と共同し都市小資産階級と聯合して鞏固なる革命聯盟を結成し、中國國民黨を贊助し鞏固にし帝國主義及新舊軍閥に反對し新しい勝利を獲得しなければならぬ。」

而して國民黨に於ては、極力右翼労働團體の、全國的組織運動に努めた。先づ廣東右翼に屬する、廣東總工會の復活を行ひ、次で南京總工會を改造して、南京に於ける勞資仲裁機關を設立し、上海には形だけでも上海勞資調節機關等が出來國民黨の清黨運動と相俟つて、漸次右翼労働團體の勢力を復活するに至つた。

元來共產黨と、國民黨とは、其の根本の立場が違つて居る。其立場を異にして居るものが、今回提携するに至つたについては、相方とも野心があつてやつたことに違いない。國民黨では、共產黨のお蔭で、其の組織、統制、規律等を整へることが出來、革命の進行上大なる援助を受けたが、内政問題殊に農工政策になると、常に共產黨の政策を直ちに行ふこととなつて、本來國民黨として願つて居なかつた行動にまで引き摺られる形となつて、大に迷惑をすることになつた。そこで必然的に對共クーデターを起して清黨運動を行ふべき必要の時が來たのである

が、兩黨の軋轢は四月十二日蔣介石の上海に於けるクーデター以來、日に増し激烈となつて、遂に七月二十八日國民黨は、共產黨に對し正式に絶縁的宣言を發した。然るに國民黨内部に於ては、同志間嫉視排擠が起つて、遂に八月十四日總司令蔣介石を下野せしむるに至つた。之に従つて胡漢民、張靜江、蔡元培等も袖を連ねて辭職し、上海では、工統會委員長に、國民革命軍東路前敵總指揮政治部主任陳群が、就任したけれども、間もなく白崇禧の爲めに辭職せしめられた。其の結果、工統會に對する労働者の態度に、烈しい動搖を來たすに至つた。

蔣介石の下野と、工統會委員長陳群の没落とは、共產黨、殊に總工會に對する壓迫が稍々緩やかとなつて來て、左派に對し擡頭の機を與へた。そこで上海總工會は、再び其の組織の恢復と宣傳とに全力を注ぎだ。一方國民黨系の、工統會は、漸次労働界に信望を失つて、殆んど無能力の慘狀を、暴露するに至つたので、勢ひ共產派の勢力が浸潤して來て、工統會打倒—總工會復活の聲が高まり、十一月十七日の工人代表會議に於て、愈々上海工人總會の設立を決し、十二月十一日第一次會員大會を開いて、次の如き事項（主要なるもの）を決議した。

- 一、中央黨部に、工統會の取消を電請す。
 - 二、工統會各區指導員は、三日以内に各自の態度を表示すべし。
 - 三、期を定めて、被逮捕同志の出獄歡迎會を舉行す。
 - 四、中央黨部に電請して忠實なる工友を不法逮捕したる、李子峰を處罰す。
- 斯くて工人總會の成立は、労働界に、一大センセーションを惹き起した。此の工人總會の内では、共產黨分子が多いと見られて居た、郵務工會や、電車工會の幹部が最も勢力を有して市黨部の指示の下に、工人總會を牛耳るに至つたのである。

『政權を離れた、支那共產黨の採るべき途は、只バルチザンの行動に依つて農民の革命的勢力を糾合するにあるのみ』とは、ボロチンが支那を去るに臨んで残した、言葉である。果して共產黨は、十一月一日宣興の、農民暴動を振出しに、江蘇省の大暴動、次で上海に罷業續出し、十二月十一日、廣東に大暴動を敢行して遂にソヴェート政府を樹立せしめた。

南京政府では、直ちに李濟琛と、白崇禧とに命じて、共產黨討伐を行はしめた

數日にして舊に復することが出来たが、之等各地に勃發せる事件の策源地は、各労働領事館及び通商機關が本部となつて居る事實を突き止め、支那に於ける共産黨の潜勢力を撲滅せんが爲め、斷然南京政府治下の、露國領事館及び通商機關を閉鎖することに決し十二月十五日、正式に對露國交斷絶の聲明を發し、駐支露國領事並に館員全部の、國外追放を行つた。

共産黨の暴虐なる行爲に眼が醒めた國民黨では其の後は、極力民衆運動を停止し労働運動に壓迫を加へ、左翼と認むる労働組合に對しては、悉く閉鎖又は組織の改造を行ひ、さしもの共産黨も、一九二七年十二月十一日の廣東暴動事件以來手も足も出なくなつた。

斯くて國民黨では、再び陣容を整へて、一九二八年一月(昭和三年)蔣介石を北伐總司令に復職せしめ、第二次革命軍を起して、遂に六月には北京の張作霖を追ひ出し、東三省を除く外は、全く國民黨の勢力圏内に歸せしめた。東三省も亦、實質的主權者たる張作霖が六月三日午前一時北京出發翌四日午前五時三十五分奉天皇姑屯南滿鐵道、クローースに於て突然爆死した爲め、その後は革命軍に對抗するの

元氣も失せ、十二月末遂に國民黨に屈服することとなり、強制的に易幟を斷行して十二月二十九日より、一週間の間官民一般に、青天白日滿地紅旗を軒頭に掲げて革命完成を祝つた。茲に於て支那の革命は完成し、南北統一となり、世は國民黨一黨專國となつたのである。其の後國民黨では、共產化防止の手段として、民衆運動を壓迫すると共に、各地に黨の御用組合としての、工會組織と之が統一とを行ひ、左派に對しては極端なる取締を加へ以て、労働組合をして自派の支配下に置き、労働運動の自由を許さなかつた。これが爲め學生及労働者間には國民黨は全く資本化したものとして、反抗的運動擡頭し、此の虚に乗じて、各地に潜在せる共産黨をして、再び活動の機會を得せしむるに至つたのである。

第四章 労働争議

第一節 初期時代の争議

大正八九年に起つた。支那の労働争議は、其の性質も簡單で、労働者の結束も

弱く、何れも、数日の間に解決された。結果は殆ど罷業者の失敗に終わった。其の争議の原因は概して経済問題であつて、一部分は目的を達しても、主謀者と認めらるゝ者は解雇され或は投獄され、官憲からは壓迫され、結局争議は労働者側の不利に終わったが、労働者側の内部的には之が爲め大に獲る所があつた。其の結果は、労働者に對して、階級的觀念の自覺を促し、一方では組合組織の急務なること、及び罷業基金の準備が、是非必要なること等を覺らしめて、漸次労働争議の第二期の時代へと導くに至つた。

元來無自覺な支那の労働者は、當時まだ、獨立的に組合組織運動をなすだけの力と準備とを持つて居なかつたのであるが、恰度大正八年五月四日、例の二十一箇條問題に反して、北京や上海等に於ける學生が中心となつて、大示威運動を起した。其の目的は對日外交問題を目標として、段政府に對する、反抗運動であつたが、之等學生運動は、遂に無産大衆運動に轉じ、労働運動に對しても非常な進歩を促した。其の時段政府は、武力を以て、極力之等學生運動に壓迫を加へ多數の學生を逮捕し、北京大學を臨時監獄として逮捕した學生を收容したのであ

る。然し如斯、高壓政策は、却つて學生の反抗心を強め、學生等の團結を促すこととなつて、北京、上海、廣東、南京、等の各地に學生會が生れ、之等の學生會代表は同年の六月十六日に、上海に集つて全國學生聯合を組織した。當時學生會員は北京を中心として、六十萬と言はれて居たが、其の運動の起りが、對日外交問題を目標とした、政府に對する反抗運動から生じたものであつた爲め、其の組織も極めて散漫であつて、其後はたゞ其の當日たる所謂國恥紀念日が來ると、毎年思ひ出した様に騒ぐだけであつた。しかるに共產黨が學生運動に喰ひ込んでからは、労働運動は素より、一般民衆運動の、唯一の指導者となつて、凡有新しい運動の急先鋒となつて來たのである。

此の五四運動に従事した、學生等が當時、廣東、上海等に起つた労働者の、ストライキに加擔して労働者を煽動し、遂には労働組合組織運動を起すこととなり大に民衆に氣勢を示した爲め、大正八年には早やくも、上海に於てのみ起つた、ストライキは二十件にも達した。然し前にも述べた如く、初期時代のストライキは、甚だ簡單で、其の多くは經濟問題が争議の主因をなして居たのと、階級意識

が加味されて居なかつたのと労働者には統制がなかつたので、解決も早かつた。労働問題を研究する順序として當時起つた主なる、ストライキの概況を述べるところとする。

一、日華紡績の罷業 大正八年二月に起つた、日華紡績のストライキは、三千餘名の職工が十日間に亘つて、強硬なる態度を持ち、要求を主張して、容易に降らなかつたが、官憲の彈壓に依つて、結局は失敗に終つた。原因は、個數賃銀制に對する反對であつた。理由とするところは所謂このハンス勞銀計算法は、職工側には不利である、從來の日給制なれば各職工何れも、其の所得に準じて生活の豫算を立て得るが、個數勞銀制ではそれが不定であり、且つ機械の破損等で、仕事を休まねはならぬことがあると言ふので、次の様な要求條件を提出して居る。

一、管理の日本人は、平生職工に對し動もすれば、毆打暴行をなすから更迭すること。

二、勞銀は依然日給制とすること。

三、紡車部の職工數は、從來の如くに減少せざること。

四、落車部は、幼年職工を以て之に充て、女工に換へざること。

右要求に對し會社側ではハンス勞銀計算法は、職工に極めて利便である。勤勉な職工は能く多額の勞銀を得らるる。會社は再び此の改革に變動を加ふることは、出来ぬと。職工側の要求を拒絶した爲め、ストライキとなつたのである。そこで會社は一步を譲つて、出來高賃銀制度に依る職工の収入が、從來の日給賃銀制度に依る収入に比し少ない場合は日給賃銀制により、勞銀を支給し、出來高賃銀制度に依る方が職工の所得大なる時は、出來高賃銀制度に依り勞銀を計算すべしと、聲明すると共に一方警察に對して、ストライキの理由を説いて、その取締方を依頼したので警察は次の様な告示を出した。

『本署長地方治安の職に任じ、職工の罷工に對して双方の事情を體察し、極力維持に努むる責あり、査するに日華紗廠のハンス賃銀制は、勤勉者毎日銀三角四分八厘を得從來の日給に比し四分八厘の增收あり、怠惰者と雖も三角八厘を得、ハンス制が多額の勞銀を得ること明なり。若し機械に破損あれば、會社之

を負擔し、職工に累せずと紗廠の此の法たるや其の意可なり。各職工宜しく意を安んじ、業務に就き端に藉りて紛擾し、不法の行爲を以て自ら損失を招くべからず。若し強暴の輩あり他人の職務を妨ぐる者あらば嚴重處分し假借せず。』然して警察官を要所に配置して、罷工の彈壓に當らしめたのと、會社側では罷工に對して復業せざれば斷然解僱して他の職工を募集すべし。と威嚇的に出たので、遂に職工等は要求を捨てて復業するに至つた。

二、三新紗廠罷業 此の工場は作業の取締が非常に嚴格で、而も賃銀が他の工場より少なく、一日晝夜共僅かに一角七分にしかならぬ。これでは到底生活費に足らないため二分増給を要求したが容れられないので、大正八年四月、遂にストライキを決行した。初めは千餘人であつたが、漸次全職工に及んで、八千餘人全部罷業を起した。

會社側では、日給二分の増額を拒絶した代りに、毎月一日の缺勤もなく働いた職工に對し、月三角を與ふることとして、工頭を介して極力復業勧誘をなさしめた爲め二日目には四百餘人復業し、三日目には全部復業し、結局罷工の失敗

に終つた。

三、三新上海兩紗廠罷業 四月の罷業に失敗した、三新と上海紗との職工約一萬人が聯合して大正八年十月ストライキを起した、上海紗廠は、三井の經營で三十個の工場を有して居る。理由は毎日給銀二分増加を要求したのであるが、會社は結局一分の増給を承認し、罷工の主謀者は解工して五日間で解決した。

四、英米煙草トラストの罷業 大正八年十月會社は、生産増加を圖る目的から夜業を特設することとして、夜班の職工を新たに募集することとした、之に對し従来の職工等は賃銀増加慾から、夜業兼業を申出でたが會社側に斥けられたので、五百餘名の女工が一致して罷業に出でた。然し會社は罷業を顧みず、職工の募集をなすに至つたので、遂に要求をすてて復業するに至つた。其の詳細は明かでないが之れも職工側の失敗に終つた模様である。

五、日華紗廠第二回罷業 大正八年二月、ハンス賃銀制度に反對しストライキを決行して失敗した、職工等は其翌年一月に、年末賞を給與せよと會社に向つて要求した。會社は即座に之を拒絶した、處が此の交渉中、職工代表を會社側が

毆打したと言ふので、職工九千人は一齊にストライキをやつた。會社は問題が紛糾することを憂へて、職工頭に二ヶ月分職工に三日分の賞與を與へることを聲明したが、職工側は尙も其の不公平な會社の處置に憤慨して、數百の職工が直接行動を執り會社の器物を打ち毀し大に氣勢を示した。然し會社は恰度機械の修理時機に達して居ると言ふので、ロツクアウトを決行して職工に脅威を示した。一方警察からは威嚇され殊に職工の多くは地方より出稼せる貧民であつたので、忽ち生活に窮して結束が亂れて來た。その呼吸をすかさず會社は、職工に六日分の日給を賞與として與ふこととして、九日間で解決が付いた。

六、三新紗廠第三回罷業 大正八年中、二回もストライキを起して失敗した職工側では、九年二月に南工場の粗紡部の職工の手不足と、管車の變更を理由として、全職工四千名のストライキを行つた。會社は度々のストライキに手を焼いて、其の取締を警察へ訴へたので、警察は直ちに多數の巡警を特派して、主謀者數名を逮捕して、會審衙門へ送つた。會審衙門へ送られた職工等は再度のストライキの主謀者と言ふので禁錮二ヶ月に處せられ、罷工等は何んの得る所も

なくして遂に復業した。

七、香港の労働争議 香港は、支那の中で一番物價の高い所である。それが歐洲大戰以來、更に騰貴して來たので、職工側では、前後四回に亘つて賃銀増加の要求をしたけれども、一向その効果がなかつた。それが爲めに生活の困難は、労働者を脅威することが頗る甚大であつた。そこで大正九年三月、全體の同業職工代表者が相會して勞賃四割増加の要求を議決したが、工場側では相變らず誠意がないので、遂に悲痛な宣言を發すると共に、續々罷業を開始した。其のときの罷工團體を擧ぐれば瓦斯會社、九龍埠頭の仲仕、セメント工場、ドツク工場、電話局職工、製氷會社、電車會社の車掌運轉手及職工、電燈局、香港大學電氣部職工、牛奶雪工場等であつた。如斯同一都市の同一職業労働者の全體が、一致を見たのは、労働運動の一大進歩であつた。其の時に香港民政司は、治安維持の見地から、各工場主及び職工代表を集めて、幾度か協議を重ねたが結局労働者側は賃銀四割増を固執して降らないので、民政司は「罷業如何は自由なるも、香港の法律は無職の閑人の居留を許さぬであらう」との意味の告示

を出した。これは正しく労働者壓迫で、職工側は工場側の運動の結果に依るものと見て、三月三十一日から香港を退去して、廣東へ引揚げ、官憲や工場主の強制的復業を避けることとし、次の如き檄文を各省の同業者に送つた。

「香港の物價騰貴し、收支償はず、生計の困窮名状すべからず。客冬以來、勞銀の増加を要求すること、既に四回、皆斥けられたのみならず、堪へ難き侮辱をも受けた。同人再三熟思の結果、竟に職を犠牲となし、別に生計を圖るの己ひなきに至り、今方に全部廣東に引揚げ、以て靜かに解決を待たんとす。若し香港工場より來りて、職工を募集せんとするも、親愛なる同業者は斷乎として之を拒絶し、吾人の體面を完せしめよ、是れ吾人の希望であり亦同業の光輝である。」

注意周到にも、彼等は工場側の職工新募集を豫防して、陣容を張つたのである。四月十四日は、香港埠頭業者に糧食を分與する常例日であるので、工場側では、當日労働者が糧米受領の爲め歸へつて來ることを豫想し、歸へつて來た職工には若干の増給を約し、同時に強制方法を以て、一部復業させやうと計畫

されて居たが、之れを知つた、職工側は、一人も糧米受け取りに行かなかつた。そこで四月十九日工場主と廣東機匠會館代表四人とが會見討議した結果、總ての職工に對し、百分の三十二半を増給することに決定し、職工側も之に満足して、四月二十日から續々香港に歸へつて、三十餘日目に復業した。

此の香港の罷業は、上海、廣東等の機械職工間に非常な同情があり、彼等は決して香港工場の招きに、應じないことを密約されて居たものである。又廣東の同業者は、各人毎月其の二日分の日給を據出して、罷業者に送つた。尙廣東機械職工公會及び長堤華僑工業聯合會から、九千元を贈つて罷業者を援助したので、罷工側では約五ヶ月位を支へ得る準備が出来て、いつかな其の態度を變へなかつたので、遂に工場側が折れたのである。

第二節 第二期時代の争議

初期時代のストライキは、上海、廣東、香港地方に限られて居たが、漸次長江一帶から遠く、北支那にまで擴がつて來た。而して此の期間は、實に罷業全盛期

とも言ふべきで、罷業の性質も單なる賃銀問題だけでなく、労働条件問題から、工會承認問題にまで進んで來たのである。即ちストライキの起る毎に、組合組織運動が起り、その組合は合同して稍々統一さるる機運を生ずるに至つた。之と同時に鐵道及び炭礦等へは、共產黨の手が及びて猛運動を始めたので、労働運動は一段の進歩を見たのであるが、何様労働者の自覺が甚だ遅いのと、組合の基礎がまだ貧弱であつた爲め、罷業の持久性は甚だ乏しかつた。

第一、鐵道労働争議

支那全國の罷業中、初めから最も大規模に、且つ眞剣に行なつたのは鐵道罷業であつた。中國共產黨は早くから、この鐵道従業員に眼を着けて、第一に京漢鐵道従業員の間で喰ひ込んで居た。大正十一年十月京綏線のストライキを皮切りに津浦、滬寧、滬杭甬三鐵道のストライキがあり、翌十一月には粵漢鐵道、京漢鐵道(南部)のストライキがあり、十二月には正太鐵道のストライキがあり、相當大きな問題が起つた。その頃京奉鐵道にも山海關で、待遇改善に關する六ヶ條の要求條件を提出して罷業團は屋外大會を開いて大に氣勢を擧げたが、結果は鐵道部で

従業者側の要求の一部を容れて解決した。之等ストライキの原因は、概して賃銀問題と労働条件の改善とにあつたのであるが、當業者に於ても、各地に頻發する労働争議の情勢を顧慮して、各々緩和策に努めたので、多くは京奉線の争議の如く要求の一部を容れて十日を出でずして解決した。

然るに、大正十二年二月に起つた、京漢線の第二回罷業は、遂に全國を震動させ、支那の労働運動に對して、一轉機を劃するに至つた。而して之は遂に全國鐵路總工會を生んだ最も意義ある争議であつたのである。

當時京漢全線には、十六個の工人俱樂部が組織されて居た。停車場毎に従業員百人以上の所には分會を設け、それ以下の所は附近の分會に附屬させて居た。大正十一年九月、粵漢鐵道のストライキも、實際の指導者は、此の京漢線の南段俱樂部であつたのである。そこで實權者たる、吳佩孚は折があらば、根こそぎ京漢線から共產黨を驅逐せんと機會を狙つて居た處へ、京漢全線で従業者團體の統一機關である總工會の組織を決定し、大正十二年二月一日、鄭州に於て成立大會を開くことになつて、全國の各工團へ案内狀を發し準備悉く成つた。當日鄭州に集

まつた、各工會は三十餘團體代表三四百人に及びそれに京漢線側を併せて、三千餘人に達し、將に盛大なる開會式を開かんとする間に、豫め直隸巡閱使吳佩孚は、第十四師長の靳雲鶚や鄭州鐵路警察局長黃殿辰等にその日の取締方を命じてあつたので、直ちに會場を軍隊と警察で以て包圍し、即時解散を命じた。而して各方面から寄贈して來た、幾多の扁額が打ち壊され、會場内は散々に破壊され、各旅館に居た各地の代表者は監禁状態に置かれ後監視を付されて、放逐された。又工人俱樂部も散々な目に遭ひ看板まで、破棄されたので、従業員等は非常に憤慨した。そこで一度解散を命ぜられた組合側では、假りに總工會を漢口に移し、四日朝全路各分會代表を漢口に集めて、大會を開き即日全線のゼネラルストライキを決行することを決議し、直ちにその實行に移つた。之れと同時に宣言書を發し五ヶ條の要求を提出した。其の主なるものは、

- 一、京漢局長、南段處長、鄭州警察處長の免職。
- 二、軍隊及び警察に破壊又は押収された、扁額及禮物の返還。
- 三、損害賠償。

四、軍隊の撤退。

五、今後毎日曜日を休日となし、年末には一週間の休暇を與へ、其の休業又は休暇日は、普通賃銀を支拂ふこと。

と言ふのであつた。而して罷業作戦としては、先づ本部を漢口に移し、罷業統一の爲めに漢口總工會の命令なくしては部分的の復業を禁じ、全く列車の運轉を止め、一方廣く各地の各労働團體、其の他の援助を求むることに努めた。然し武力の前には之等罷業側の作戦は、何等の權威もなかつた。鐵道側では、飽まで強壓的に、罷業者を壓伏せしめんがため、武力を藉りて復業を強請し、首領の逮捕に努め、一方他の方面から、鐵道從業部の融通を受けて、列車の運轉を始めた、長辛店では軍隊が俱樂部を包圍して、復業を強要したが應じないので發砲して十數名を死傷せしめた。江岸では七日罷業者二千が軍隊に逮捕された。この罷業員を奪還せんとして、軍隊と罷業團と衝突し罷業者側に死者三十一名、負傷者百數十名を出した。又鄭州では組合代表五人を逮捕して市中を引廻し、労働者の復業を迫つた、漢口でも軍隊と、罷業者側との衝突があり、多數の死傷者を出した。

其の他全線各地で、軍隊と労働者との悲惨なる衝突が行はれて労働者に、大なる損害と犠牲者を出さしめた。鐵道側では、更に労働者の家族を壓迫し、鄭州では労働者の家族を追出して、罷業團を威嚇した。鐵道側では既に五日附布告を以て十二時間以内に復業せざる者は、解雇する旨を宣言し、強制復業を迫ると共に天津の太沽造船所より、百二十人を京漢線に輸送し來つて、鐵道事務に充て、又京奉、津浦線の熟練工を指導者とし、兵士數百名を精選して、列車勤務を練習させ更に京奉線唐山から百二十六人の従業者が輸送されて來て、不取敢武装軍隊の監視の下に辛じて列車の運轉を強行して、益々罷業側に壓迫を加へた、それが爲め九日、遂に罷業團は悲痛なる復業命令を出し漸次復業するに至つた。

此の事件に労働者側では、死者三十九名負傷者三百名、入獄者二十七名、解雇され失業したる者、五百餘名と言はれて居る。以來二七記念日は、即ち江岸事件を記念する爲め定められた日で、毎年全國労働者の間に追悼されて居る。

此の京漢線の大罷業は、各方面に多大なる衝動を與へた。各鐵道工人は勿論工場労働者、學生等は盛んに應援を試みたが、何れも直隸派の武力の下に制壓され

た然し京綏、隴海、津浦、正太線等の従業者は、京漢線と同一行動を採ることを議決した。京奉線では、山海關鐵路工會と天津機紡處とが應援の通電を發し、二月六日から同情罷業を開始した。粵漢線も同情罷業したが、九日には復業した。浦口船務處の連絡小蒸汽も罷業した。武漢の労働組合では、漢陽鐵工廠が、八日から罷業したが、武力壓迫によりて直ちに復業した。丹華機器廠亞細亞及びヌタンドード石油廠も罷業した。其の他湖北工團聯合會、湖南全省工團聯合會等も共に立つて應援した。軍閥側は之に對し飽くまで武力制壓を徹底させ、粵漢線湖北部の罷業の如きは其の翌日武力に依つて、漢口劉家廟の慘劇となり、除家柵工會は閉鎖され罷業團は銃劍の下に、復業を餘儀なくされた。

北京では、學生聯合會が中心となつて、民權運動大同盟、北京學生聯合會、北京團聯合會、中國労働組合書記部等十餘團體の代表會議を開いて、罷業應援の爲民權擁護の運動を起して、大に聲援した。

此の罷業は、軍閥の極度の壓迫に依つて、表面失敗に終つたが、共產黨の潛勢力に依つて、鐵道労働運動は漸次第二期の運動に入るのであつた。其の後京漢線

従業員は一度破壊された組合の復活に努むると共に、更に全鐵道従業員組合の統一と内容の充實とに全力を注いだ。かくて一年間の苦心の結果は全國々有鐵道従業員を團結した全國鐵路總工會が、京漢鐵道慘劇の一週年記念日に、鄭州に於て成立大會を開くことを得たのである。其の後一年間は、彼等の運動は、組合内容の充實に向けられ、各鐵道の總工會も、略ぼ出來揃つた。また組合の組織も統一され、團結力の集中が準備されて來た、この事に就ては組合運動の部で述べた通りである。

第二、海員労働爭議

海員工會は、鐵道總工會と共に、共產黨の二大有力な組合である。共產黨は鐵路總工會を以て、國內軍閥との争闘の中堅として居るように、海員工會を以て、對外的労働運動の中心となして居た。

香港の海員工會では、大正十一年一月十三日から三月六日まで、五十餘日に亘つて罷業を繼續された。始め海員の罷業から全労働團體の罷業となり、海員と船主の争は香港政廳と廣東政府との、抗爭と變ずるに至つたのである。

罷業の原因は、貨銀値上問題からである。元來香港は前にも述べた如く、支那で一番物價の高い所で、米の如きも上海よりか三倍も高い。それに一般に生活程度が向上して來た關係上、十年十一月に、海員組合は、月給三十弗以上は三割、同以下は四割の増給を各船主に要求したが顧みられなかつた。其の後海員は、尙も強硬なる態度を以て主張を枉げないので、船主は最高二割五分最低七分五厘を各航路別に増給すべき妥協案を香港政廳に提出したが、香港の組合代表は承知しなけれども、廣東代表が反對したので成立せず、船主側も妥協案を撤回し剩さへ組合代表を否認したので、大正十一年一月十三日遂にストライキを開始した。罷業後は度々船主側と海員代表と交渉が行はれたけれども、纏まらず十九日英國領事の請求で、廣東公署に交渉員、英副領事、香港華民政司に、香港總督代表、海員代表、省城工團代表等が集つて協議する處があつたが、結局得る所がなかつた罷業側では、海員罷工辦事處なるものを、廣東永北路互助社内に置いて、役員を設け、市内十八ヶ所に接待所を設け、罷業海員は、國民黨支部、互助日報、廣東群其他労働者集會所等二十四ヶ所に收容され、廣東にある百餘の労働團體約二十

萬及び有志の寄贈に依つて、生活を支へた。次で罷業團は、労働組合を後援して罷業を擴大させ、香港の貿易はほとんど休止の状態に陥らしめた。其の結果は二月一日、香港石炭積込荷揚人足、帆船組合、小蒸汽船乗組員等十數ヶ團體が同情罷業を行つて、各々廣東に引揚げたのを手始めに、二月二十八日から三月一日にかけて、外人使用のコック、ボーイ、媒姆、外字新聞の印刷職工、外國旅館従業員から一般外國人使用の支那人全部に及び、罷業總人員海員二萬三千人、洋務總會六千人、華人機器一萬二千人等を始めとし合計三十二團體九萬一千七百人に及んだ。

之に對し、香港政廳では、廣東政府を牽制する手段として、銀の輸送を禁遏し白米と石炭との移入を絶ち、嚴重に海上を封鎖すると共に、廣九鐵道の運轉を中止して輸送を停止し、労働者の廣東へ退去するを防ぎ、香港在留の支那人に強制労働を課するに至つた。又二月三日香港政廳では、海員公會に對して公安を害するものとして事務所を封鎖し、關係者數名を監禁した。かくて爭議は持久戦に入り、香港廣東共に尠なからざる損害を蒙つた。二月八日香港停泊の汽船は、三百

四十三隻、三十三萬五千八百六十噸に達したが、一番打撃を受けたのは、支那商人であつた。そこで先づ廣東の總商會は、香港支那總商會と協同して調停運動を始め、上海にある廣東人の商業聯合會も、之に策應し茲に漸く妥協の機運に向つて來て、海員側も政廳も、折れて出たので、二十八日には香港有力者と海員代表との會見に依つて、事件は方に解決せんとして居たが、廣東政府と共產黨との活躍によりて一時妨害され、再び形勢を盛り返すに至つた。即ち三月四日香港政廳に於て各代表の會見となり、協議の結果

- 一、航路別に依り、一割五分乃至三割の増給。
- 二、船主は海員組合を通じて、海員を雇入ること、但し雇入契約は組合の確認を経ること。

等で妥協が成立し、五日調印され六日から、漸次復業するに至つた。

然るに大正十一年八月、香港海員罷業の餘沫は上海に飛んで、同地に海員罷業を起した。其の原因は、香港の罷業で決定した賃銀率を、上海にも適用せよと言ふのであつた。招商局の海員公會上海支部が、最先に罷業を起した。この罷業は

小さい、汽船會社の方は妥協が出来て早やく解決したが、招商局の方が強硬で解決が出来ず、遂に上海護軍使何豊林の、解決督促に遭ひ、二十五日海員代表者と招商局重役と會見交渉の結果、海員側から提出した要求に修正を加へられ、妥協成立して、二十六日海員大會を開き、同日正午から復業するに至つた。

之等香港、上海兩地の海員罷業は海員組合の勢力の擴大を促したものと見るべく、其の後十四年には、其の勢力は、北支那天津にまで及んだ。遂には中華海員工會聯合會なる。全國組合統一機關を完成し各地に支部を設けて、之を統制し大正十四年の五卅事件で、上海支部の大活躍となつたのである。

第三、鑛山労働争議

支那の鑛山労働運動は、他の労働運動に比較すると、遙かに發達が遅れて居るそれには、種々の原因があるが、概して鑛山業が發達して居ないのと、又大鑛山は各々外國資本に依るもので、而かも、それが數個を數ふるのみである。その他は舊式の手掘り式のものが多く、團結が出来ないのみならず此等の労働者は、農業を兼ねて自宅から通つて居る者が多いので、生活に困らない。又鑛山は、都會

を離れて孤立して居るので、他の組合の直接應援や、労働運動の煽動者等が入り込むことが困難で、ストライキを起しても、容易に、軍隊の爲に制壓される等の不利な立場にあるからである。然し大鑛山は、大正十年の暮れから、翌年にかけて、一度は、總て労働争議の洗禮を受けないものはなかつた。其の頃は前に述べた、交通労働者も、一般工場労働者の方でも、盛んに組合組織と、罷業とを行はれた時代なので、其の風潮が遂に鑛山方面にも及んで來たのである。従つて争議の原因も、主として賃銀問題と、組合組織の問題とであつたが、結局罷業は、一般に鑛夫と、武力との、對抗となつて終つた觀がある。

罷業の主なるものを挙げると、大正十年十二月、水口山鉛鑛の坑夫三千名が、賃銀増給を要求し、數日間ストライキを行つて成功した。翌年十二月に、工人俱樂部の解散を命ぜられ之に反對して、第二回罷業を行つたが、武力の壓迫に遭つて、失敗に終つた。大正十一年九月萍鄉炭鑛の坑夫二萬千餘が賃銀問題と、炭坑側の組合破壊計畫に反對し、五日間總罷業を行つて、要求を貫徹した。十一年十月には、開灤炭鑛の罷業があり、十二年九月は、大冶鐵山の總罷業等、相當大き

い争議であつたが、其の中にも、十一年十月に起つた直隸省唐山縣に有る、英國資本に係る、開灤炭礦の、總罷業は三萬七千の鑛夫が、賃銀値上、組合禁止反對坑夫虐待問題等を主張して、二十五日間に亘つて持久戦を行つた、最も大きな争議であつて、一般労働組合に大きな衝動を與へた。其の時坑夫側では、募捐隊十隊を組織し、毎日各所を廻つて罷業資金を募集させた、鐵路工會、山海關團體、其の他上海、漢口方面の各團體から、相當の援助を得た。一方では、スキヤツブ罷業破り防止の爲め毎日一回大會を開いて志氣を鼓舞し、糾察隊を巡視させて、切崩しに備へた。そして廣く全國に聲援を求めた。其の結果、京奉鐵路製造廠及び唐山労働團體は、全國に通電を發し、唐山セメント會社は同情罷業を決議し、次で京漢總工會、中國労働組合總部、粵漢鐵路總工會等が盛に之に聲援を與へた。

炭坑側では、極小數の逃げ遅れた者を坑内に留めて、排水其の他の應急處に當らしめた。そして此等の作業を保安隊をして嚴重監督せしめ、罷業團に對しては成る丈時日を遅延せしめて、其の日暮しの坑夫等の、餓死の迫り來るを待つと共

に、一方では彈壓手段を以て壓伏に努めた。即ち罷業が起ると直ちに、天津から保安隊二百名を呼び寄せ、各鑛の守備、罷業團の集會阻止等に當らしめ、漸次其の數を増加して、千餘名の保安隊を以て、工人俱樂部、其他罷業機關を占領し、組合代表二十一名を逮捕して之を監禁した。續いて軍隊及警察隊六七千名の出勤となり、遂に武力壓迫に依り坑夫側の大失敗となつて、復業を餘儀なくさるるに至つた。

第四、工場労働争議

工場労働争議は、組合の發達に従つて、益々複雑して來たが、中にも外國人の罷業と支那人工場の罷業とは、其の性質を自から異にして居る。初期時代は、何れも單純な労働争議であつたが、次第に外人工場に對する罷業は、對外的色彩を帯ぶる傾向となつて來た。例令ば反帝國主義運動の一部として、又は反資本主義の立場から、或は國民間にある利權回收熱、或は排外感情等、種々複雑な關係を生ずるに至り、其の背後に共產黨あり、學生あり、民衆あり、從て罷業の性質も亦大に異なる處があつた。尤も外國人工場と言つても、實際は英國と日本とであ

る。説明の便宜上外國人工場争議と、支那人工場罷業を區別して、其の概要を述べることとする。

一、外國人工場争議

(イ) 英人企業の罷業は、香港に於ける罷業と其他に於けるものとは、罷業の性質を異にして居る。香港に於ける罷業は、其の種類の如何を問はず、廣東對、香港の争闘となつて、其の性質も亦一回毎に深刻を加へて來た。例令ば前に述べたり通り、大正九年三月に起つた、香港の大罷業を見てもよく判ることである。上海に始めて罷業の起つたのは、大正八年十月、上海英米煙草トラストの罷業であつた。此の罷業に就ても前に述べた通りであるが、大正十一年十一月再び上海英米煙草トラスト女工等二千餘人が、寄り／＼賃銀値上の相談をして居た處へ、日華紡績の罷業が始まつた爲め、之に誘發せられて罷業を行つたのである。罷業側の要求の主なるものは、紡績工會の閉鎖を解くこと、俱樂部を職工代表として承認すること、賃銀月給者は二割乃至四割増、女工出來高拂は四割増、九時間労働制の採用等であつた。

會社側は、首謀職工の讖首を固持し、且つ新女工募集を行つて、威嚇を示したので、罷業職工團は、遂に工場や支那人支配人の宅等を襲撃して暴行し、若干の負傷者を出したが、會社は飽くまで、強硬なる態度を持して遂に二十九名の職工を讖首したので、氣勢を殺がれ、若干の増給で復業するに至つた。其の年十月、漢口でも英米煙草トラスト會社の、男女職工三千餘名が、賃銀増加を要求して罷業を行つたが、全省工團聯合會の調停で、會社の讓歩に依りて、十五日目に解決した。更に其の翌年一月、第二回の罷業を行つた。其の原因は會社が前回罷業の解決後協定條件を守らず、其の上復業後女工代表二十餘名を讖首し、労働時間を延長し、遅刻者に二倍の罰金を課したことにある。

此の罷業宣言中注意すべきは、吾人の戦は資本家、殊に國際資本主義の、英國と戦ふのである——と言ふこと、及び彼等の争闘目的が、労働者の人格解放にあると言ふことであつたが、工場側では、高壓的に賃銀の仕切をなすと共に、工場のロツクアウトをやつて新職工の募集を以て威脅を示したもので

ある。そこで罷業團では、全省工團聯合會を動かし、各労働組合の聲援を得て之に對抗したが、結局上海總工會から代表を特派し工團聯合會に調停を求め大體職工側の要求が容れられて、二十餘日目に解決した。

又漢口の隆茂棉花工場は、此の英米煙草會社の罷業と、同時に起つて罷業を行つた。その原因は事件發生三個月前、棉花工場職工間に工會を組織したが、會社では之を切崩す爲工頭六人をして、同人會を組織せしめ、高壓的に、工會側の熟練工二百名餘りを解雇し、新たに募集した職工を同人會に入會せしめた。所が或事から、雙方の職工が口論したのを、會社は工人代表と職工三名を捕へて、英國巡捕房へ送つたことから、工會側では之を取戻さんとして、茲に巡捕と職工との衝突となり義勇隊が來て、發砲した爲め數十名傷け陸戦隊まで出て、機關銃を据へ付けると云ふ、大騒擾となつた。此の騒ぎの裡に他工場の職工が、退場してこゝに來合せた處を會社側に毆られたので騒ぎは益々大きくなつた。其の結果、隆茂の外、平和、利華各工場三千餘人のストライキを起した。そこで罷業團側では、花廠工會の職工代表の承認及び

職工紹介権の獲得、事件責任者の處罰、謝罪、賠償等を要求した。事件は漢口全労働組合の手に移り、對外的色彩を帯ぶるに至つた。全省工團聯合會では、二十一工團代表二百餘名を集め、緊急宣言を發表して全國各界と共に國際資本主義に對し、一致して實力を以て争ふことを議決し、各組合の代表を集めて、罷業の事務を執ることとした。其他湖北各界聯合會、武漢新聞記者、學生聯合會等が立つて、盛んに國際資本主義打破を高唱して聲援をした。

會社側では、職工三十三名を逮捕拘留して、刑務所に送り裁判の結果各々數月の禁錮に處し頗る強硬な態度を示したが、罷業の擴大に依つて、益々排英熱が高まつて來るので、會社は花廠工會の職工代表權を承認し、職工は凡て工會から紹介さす事及び八時間制採用等を容れて、罷業は急速に解決した。以上の實例に依つて見るに、罷業の性質は單純なる労働争議から、次第に複雑となつて、對外色彩を帯びて來たことを知ることが出来る。それが大正十四年の、五卅事件に至つて、全然對外運動の手段として、同盟罷業が行はれることとなつたのである。

(ロ) 邦人工場に對する罷業も、始めは單純なる労働爭議であつたが、次第に、對外運動の色彩を多量に含まれて來た。――邦人の工場と言つても、それは殆んどが、紡績工場を示すのである。――上海の日華紡績の如きは、前に述べた如く、大正八年、九年、續いてストライキを起し、十一年には、前後三回に亘つてストライキを行つた、此の罷業は、前年のそれとは多少形勢が變つて來て、會社側の威壓位だけではなかく治まらなくなつて來た。既に浦東の日華紡績の工場間には浦東紡績工會が出來て居た時であつた。

大正十一年四月に起つた、第一回日華紡績の罷業の原因は、物價騰貴、生活困難に伴ふ賃銀二割増加要求であつた。問題は賃銀増加の範圍を出でず、警察署長の調停で妥協が出來たが、結局一割一分の増加、一年一回の増給、故なく職工を解雇せざることを、等に依つて解決した。然るに其の翌月起つた、第二回罷業は、不熟練工も熟練工と同様、出來高拂として貰ひ度いと、紡績工會代表を通じて會社に要求した。會社は之を拒絶すると共に、少數者が會名を利用して、職工を煽動する工會とは、一切關係を絶つ旨を宣言したること

に始つた。而して此の罷業には、外部からの應援が、上海紡績業工人滬西部が、聲援すると同時に、男女學生が數十隊に別れて、市中を廻り、罷業資金一千元を集めて、罷業團に送り、男女聯合會、婦女青年會が、罷業女工の後援會を開いて、労働組合の必要を説き、又資金募集をも行ひ、其の他各工團聯合會が、拘引された工會代表の釋放運動をなすと共に、社會主義青年團が、此の時早くも姿を現はして各界の協力を説き、罷業者の騷擾を戒めたことは注目に値する。

工場側では飽く迄組合を否認し、警察に對して、組合の解散と、主動者の處罰を要求した爲め、組合代表等は拘引された。罷業者側では、組合承認と代表の釋放を迫つたが、警察署長の斡旋で、罷業者が折れ工會長と代表は、自ら辭職し單に賃銀要求の一部が容れられて復業した。

續いて、十一月に起つた、第三回の罷業は、第二回の罷業に残された問題が原因となつた。職工側では、工場に對し警察が工會を封鎖したのを撤去するやう、請願して貰ひたいと要求したのを、工場側が拒絶したので罷業とな

つたのである。恰度其の頃、綿糸暴落によつて、一般に操業短縮をやつて居た時であつた爲め、工場側の腰が非常に強く、ロツクアウトをやつて、威嚇すると共に、絶対に組合を否認し、且職工の組合脱會を勸説した。罷業側では指導者を缺き、運動が不統一となつて、氣勢が揚らず、其の中に生活に窮するに至つて、遂に紳商に調停を依頼した爲め紳商と、警察署長との仲裁により何等得る處なくして復業した。

如斯労働運動も、組合が生れて多少面目を改めては來たが、未だ労働者の自覺と、統一が出來て居なかつたので、支那人工場の罷業との間に殆んど差異を認められなかつたのである。

二、支那人工場争議

支那人工場側でも、組合が盛んに組織さるゝと共に、ストライキも至る處に起つた。本期上海に起つた主なるストライキは、蠶糸工場と、南洋煙草工場の罷業であつた。大正十一年八月に起つた、開北生糸工場二十四家の罷業は、上海全部に擴がり、女工總計一萬餘人の大罷業となり、約十日間繼續した。其の

原因は、労働時間の短縮と、賃銀値上であつた。之れ等工場の労働時間は、午前四時半より、午後六時迄、十四時間も働く、日給は三十仙乃至四十仙に過ぎず、他の生糸工場に比べると、遙かに安かつたのであつた。然るに工場主側では、飽く迄官憲の威力を借りて、壓迫するに決し、警察に取締を要求した結果、警察では署員全部を召集し、軍隊も亦出動準備をなし、就業妨害者を逮捕して、遂に威壓を以て復業せしめたのである。

所が更に十二年七月、第二回の罷業が起つた。それは前年の罷業後、女工團代表は、省議會に對し時間短縮、賃銀控除廢止、凌虐制止の請願を出し、省長を動かし、労働時間九時間及び休日の規定が發布されたが、工場主が實行しないことに依つて起つたのである。けれども一部の女工が動いただけで、他が應じないので失敗に終つた。

次に十一年十一月に起つた南洋煙草會社の罷業は、餘程進歩して居た。この時には賃銀問題も單なる増給でなく、月給制を主張し、其他夜業の割増賃銀の要求、組合の承認を要求したが工場側は極めて、妥協的態度に出て、組合を

認め賃銀増加の要求を容れ、年末には純益を、給料の多寡に応じて分配する等進んだ種々な協定が出来て、三日間に六千の罷業團も復業した。

廣東では、十一年十二月、廣州市全印刷工の工社團體が一致して、賃銀五割増、八時間制等を要求して罷業を起し、遂に罷業は漢口に及び、漢口既済水電公司従業員が、工人俱樂部を組織したのを会社が承認せぬので、罷業を起したが、軍隊の力で壓伏された。濟南の魯紡績にも、罷業が起つたが直に復業した。大正十一年九月に起つた、直隸省の唐山製造廠の罷業は、多少氣の利いたものであつたが、勿論自覺的の運動ではなく、他所に真似た位なものであつた。要求は主に、賃銀問題であつて、休日にも賃銀を與へよと言つたようなことであつたが、大體要求が容れられたのに調子づいて、更に六ヶ條の追加條件を持ち出し、組合の承認や、雇傭權問題、養老金、救恤金等を要求したが、今度は、そう簡單には行かず、罷業となつたが結果は判明しないけれども、遂に武力の壓迫に依つて復業したやうであつた。

斯うして、第二期の運動は労働組合が問題となり、罷業の原因や要求の性質

が變つて來たと共に、罷業の範圍も亦全國的となり、漸次労働運動が、革命運動的色彩を帯びるやうになつて來たのである。

第三節 第三期時代の爭議

大正十二年二月、京漢鐵道のストライキに失敗した、中國共產黨では、進路挽回の手段として、露國の援助を受くることとなつたと共に、一方に於ては、國民黨内の割込運動に成功して、愈々共產黨運動の本舞臺に入つた。其の翌年即ち、京漢鐵道罷業の、一週紀念日に、全國の鐵道従業員を網羅する、全國鐵路總工會が成立し、續いて廣東を本部とする海員總工會が成立した。斯くて翌十四年五月一日メーデー紀念日に、廣東で第二回全國労働大會は開かれ、年來の目的であつた、中華全國總工會が完成して、茲に全國労働團體の統一と、聯絡機關が出来あがつたのである。従つて罷業も、從來のものとは其の性質を異にし、漸次對外運動の手段として行はれ、労働爭議本來の意味は、殆ど失はるるに至つた。それは共產黨一派が、労働運動をして、反帝國主義運動の手段として、利用したこと、

又全国的に反帝國主義運動を起した後は、之を利用して、逆に労働組合の組織に努めた爲めである。そして、封建軍閥打破、反資本主義運動、國民の利権回收熱、排外思想の向上等を煽るに至つたため、労働争議は急激に政治闘争への展開をなすに至つた。而して國民革命運動の、一戦線として、經濟闘争が意識的に遂行されるに至つたのである。

第一、五卅事件前後の争議

一、青島紡績罷業

一九二五年、即ち大正十四年四月に起つた、青島紡績罷業は其年二月の、第一回上海紡績罷業と共に、中國第一次革命高潮期の烽火を揚げたものと見てよい。漸く深刻になりつつあつた、反帝國主義反軍閥の、國民革命運動の先行として、労働者が外國資本主義に對する、計畫的の事件であつた。其の年二月九日から、三月にかけて勃發した、上海の紡績罷業の傳波を覺悟した、青島の日本の資本家は、其の豫防手段として、宣傳の警戒、不逞分子の處分、支那當局との協同等に努めたが、それは却つて、事件の勃發を促進せしめたに過ぎなかつた。

つた。四月十九日、大日本紡績の職工三千百名は、五ヶ條の要求を提出して罷業を開始した。其の主なるものは(一)、工會の承認、(二)、賃銀の増給、(三)、職工を罵詈雑言打侮辱せざること、(四)、工人の處分は工會の同意を得ること、(五)、工會代表を解雇せざること、(六)、罰金は工會に交附して教育費に充てること、(七)、食事時間を一時間となすこと等であつた。罷業は遂に内外綿、日清紡、膠濟鐵道四方工場、青島製糸等にも擴大した。罷工委員は、五月二日生活苦を訴ふる十八項の説明を發表して、三週間罷業を支持した。五月九日、日支調停委員が組織せられたが、會社が飽くまで強硬な態度に出た爲め、罷業團は、五月十日休戦を決議して、肅然たる入場式を行つて復業したので、罷業は一先づ解決した。然し會社は賃銀値上、工會承認等は一切却下し、其の他の待遇善改を條件とした。そして此の事件の主謀者六十名を直ちに解雇し、尙不良分子の解雇範圍を擴大したので、労働者側では會社に對抗する手段として、青島紗廠總工會を組織して、サボターチユを以て應戦した。斯くて十五日には内外綿の七、五、工場に暴動が起つて、機械を破壊し、内外綿、大日本紡等は、罷業の爲めに占

領せられ、事件は益々悪化して、日本官憲も手の付けやうがなくなつた。そこで二十七日、北京の芳澤公使から、外交總長に對し、嚴重なる抗議を提出し二十八日、旅順から、我が驅逐艦、櫻梅の二隻を青島に急派された。山東督辦張宗昌は、この抗議に依つて罷業取締の嚴命を發し、五月二十九日早朝、青島陸戰隊と保安隊六百を以て、罷業團の占領して居た、大日本紡日清紡内外綿の三工場を包圍して、退場を迫つたが、内外綿工場だけは退場しないので、遂に發砲し、死者三名重傷五名輕傷數十名を出して、漸く退場せしめ、主謀者七十餘名を逮捕した。會社側では工場を臨時休業し、一應罷業に参加した職工全部を解雇し、改めて善良職工のみを雇ひ入れることとなし、四月十九日以来の争議も、徹底的武力壓迫に依つて鎮定したので、日本資本家は勝利の盃を舉げて喜んだが、未だ争議の後始末も出來て居ない、翌五月三十日、上海に於て彼五州事件が勃發して、全国的に動搖した。それが爲め労働争議解決後の、青島労働者の、動搖なきやを大に憂慮されたが、張宗昌の徹底的武力壓迫に依つて、其の後は大なる動搖もなく、六月十三日各工場共整理を終り、操業を開始した。

然し七月二十二日、大日紡の解雇職工等が復職を迫つて、再び動搖し、一時内外綿第六工場も、全部退職したが、二十五日には平常通り作業に従事することとなり、二十九日張宗昌は青島罷業の首魁「青島公民報」主筆胡俊之、四方鐵路機廠工會首領王福元の兩名を斬首の極刑に處し、漸く安定するに至つた。

二、上海の罷業

一九二五年二月九日、上海の内外綿第九工場の職工が、会社の不良職工淘汰を理由として、賃銀増加、待遇改善、組合承認等を要求して罷業を開始した。此の罷業は、直ちに内外綿十四工場に波及し、次で日華紡績第三第四工場及び豊田紡績大康紗廠の罷業となり、東洋紡績同興紡績其他大會社二十二工場に傳波し罷業職工數三萬數千に達した。罷業團は各所に暴動を起し、工場に對して直接行動を行ひ機械器物を破壊し、數名の邦人社員に負傷せしめ、罷業團の形勢次第に悪化し、二月十九日迄に逮捕された者五十名に及んだ。そこで二十日支那側から調停者が現はれ、會社側代表と交渉を開始し、二十五日内外大康裕豊等は操業を開始し、其の他の工場も漸次復業するに至つた。此等の罷業

は、會社側の態度強硬なる爲め大體に於て失敗に終つたが、其の後とても、職工と會社との間には、依然反目闘争が持續され、職工側のサボターチユと、部分的罷業とは絶へず行はれて居た。

斯くて、四月青島紡績の罷業起るや、上海の労働者は再び勢を得、四月三十日、内外綿の、第五工場先づ賃銀増加、待遇改善の要求を提出し、次で五月四日、同社第四第九第十二工場及び同興第一日華第四工場の労働者も、同一要求の下に罷業を開始し、會社側の強硬な態度と相俟つて、形勢非常に險惡となつて來た爲めに、各會社は一齊にロツクアウトを行ひ、所謂不良分子の解雇を斷行した。然るに五月十五日内外綿第七工場の男女七十餘名は、工場閉鎖に反對し、工場門前に於て警戒中の、日本人及び印度巡查と衝突し、印度巡查の發砲に依り、職工側に六名の負傷者を出し、内一名、顧正紅は間もなく死亡した。

此の事件に依り、労働民衆學生團等の激昂を買ひ、此等の者の示威運動は、日々激しくなつて行つた。五月二十四日には學生六名が、宣傳ピラ散布の慶で工部局に引致されたことに依つて、労働者及び學生等と、會社側との對立は、

さながら戦闘状態を呈しつつ、五月末まで持續された。

五月三十日午前開かれた、會審衙門の裁判に於て、釋放を許されなかつた、五名の學生(六名中一人は釋放さる)の爲めに、豫て門前に集合して居た群衆は、直に全市に亘る盛んな示威運動を開始したが、其の内の一隊が、南京路と、浙江路の交叉點に於て講演中、三名の學生が引致された。此種小衝突は各處で行はれ、學生等は、頻りに引致された。最後に南京路署附近に於て、群衆と警官隊との激しい衝突が起つた。其の際遂に、英人署長の命令により午後三時印度巡查は、一齊射撃を行ひ、四名を殺し、十餘名を傷け、四十四名を引致した。之れが所謂五卅事件である。

斯くして六月一日には、上海全市罷市を行ひ、群衆は各所で租界警察と衝突し、同日浙江路に於て再び群衆二十餘名が殺傷され、同夜新世界附近の衝突で群衆中又も死亡一名と十餘名の負傷者を出した。

商人の罷市は、事實上有効に持續することは困難であつて、六月二十六日には一齊に之を停止された。然し労働者の罷業は、日々益々擴大した。上海總工

會の調査に依れば、六月十三日迄に日本人經營事業では、三十九個所六萬三千、英國人經營事業では、二十四個所三萬六千、工部局事業では、八個所三千六百、其他外國人關係事業では、三十五個所二萬七千、總計百〇六個所十二萬九千六百人が、政治罷業に参加した。又之に伴ふ支那人經營工場では、十一工場二萬六千餘名の罷業があり、上海の一切の大工場、近代産業の労働者は、全部罷業に参加した。尙六月三十日までの外國人經營工場の罷業は、八十六個所、十萬九千二百四十二名に達し、之に海員三千名、外人被使用者二千五百名、碼頭若力三萬餘人を加ふると、無慮十四萬五千に上る有様であつた。而して斯る運動は、全國總工會の指導の下に、各地に行はれたのであつて、漢口、南京、九江、重慶等の各所に於ても慘憺たる衝突事件を惹起した。

北京、天津でも労働者を中心とする、民衆示威運動が、連続的に發生し、外國人經營の工場は全國に亘つて、殆んど例外なしに示威罷業が行はれたのである。

この五卅事件は、中國民衆の民族革命運動を刺戟し、全國的反帝國主義運動

に對し劃期的に變動を與へた。殊に労働階級に對しては、五卅運動に依つて、その組織と實力とを全国的に擴大し、國民革命の中心基礎を建設した。而してこの五卅運動に於ける經驗こそ彼等をして、一九二七年の大暴動を敢行せしめ、今日支那の無産階級の實力を、建設せしめたるものである。

第二、廣東對英ボイコット

中華全國總工會では、五卅事件發生後、直ちに秘密會議を開いて對英ボイコットの準備に着手した。之に依つて、反帝國主義罷業の鋒先は、著しく英國側に差し向けられた。六月十九日『上海商工學聯合會の十七ヶ條要求の擁護、香港政府に對する政治自由、法律上の平等、普通選舉、労働立法、家屋稅減額、居住自由の要求』を掲げて罷業を宣布した。

『阿片戰爭後、帝國主義は經濟的・政治的・文化的侵略の外、更に武力の屠殺を以てした。之を若し忍ぶべくんば何をか忍ばんや。故に吾が香港工團代表聯席會議は上海、漢口各地と同一行動に出て帝國主義と一決戦を爲さんことを一致決議した。帝國主義の快槍巨砲は、吾人の死命を制し得る。中華民族は奮闘するも死し、奮

闘せざるも死す、然らば奮闘せずして死するは、焉ぞ、奮闘して死し、鮮血を以て民族歴史の光榮を鑄成するに如かんや。隨て吾人は毫も懼るる所なく強權階級と一死戦を決せん』これは香港に於ける罷業の際労働者がなした宣言の内容である。そして六月十九日より、對英總罷業は、先づ香港より開始せられた。

(イ) 罷業の第一期 六月十九日、罷業宣言發表と同時に海員、印刷、電車先づ罷業を開始し、二週間の後には完全にゼネラル、ストライキとなつた。労働者は海陸より陸續廣東に引き上げ、罷業は沙面にも擴大した。香港當局は、直に全市に戒嚴令を布き、廣州に對しては、糧食、金銀塊、紙幣等の輸出を禁止して對抗策をとつた。所が六月二十三日、民衆の示威運動に對し、沙面の英國當局は、機關銃の射撃を行ひ、死者五十二名、負傷者百七十餘名を生ぜしめたので、之れより、廣東の對英ボイコットは、一層悪化するに至つた。労働者は省港罷業工人代表大會を開き、之を罷業の最高議事機關となすこととなし、更に十三名の委員を選出して、最高執行機關たる、罷業委員會を組織した。そして其の下に幹事局を設け、文書、宣傳、招待、庶務、交通、交

際、遊藝の七部を置き別に、財政、築路兩署員會、糾察隊、會審處、保管相賣局、法制局審計局、工人醫院、宣傳學校等を、罷業委員直屬下に設立した。殊に二千の糾察隊は十二名を一班とし、小隊、支隊、大隊に編成し、各海口に駐屯して秩序の維持、反革命派の逮捕、食糧の截留、英貨の沒收等に從事した。

斯くて香港に於ては、七月二十七日、遂に市民大會を開いて、左の如き決議をなした。

- 一、罷業の繼續する限り、治外法權關稅に關する會議に反對する。
- 二、河用砲艦、飛行機母艦を増加し更に英兵一個大隊を必要に應じて動員する準備を求む。
- 三、廣東政府が、英國の利益攻撃を止めない限り、それを敵國と看做す、旨の通告を要求する。

斯くして英本國に對して、武力手段の發動を電請し、一方梁鴻楷、魏邦平等を援助して、新成立の國民政府を倒さんと試みた。そこで労働者は、罷業

の永續を保持する手段として、廣東の經濟的獨立を急務として、特許證制度を実施した。その特許證と言ふのは英貨英船を除き、香港に寄港せざるものに限り、廣州に来ることが出来ると言ふのであつて、商縣廳、外交部、罷業委員會、公安局の共同審査認定の下に發行するのである。この特許證制度實施と共に、英船以外の直航するもの急激に増加し、廣州海面は前例のない賑ひを呈するに至つた。此の間罷業委員會は、黃埔と廣州に至る、七十五支里の道路を、根本的に修築し、廣州貿易の發展を援助した。

(ロ) 罷業の第二期 廣東政府には當時一、許崇智、梁鴻楷の軍人派二、胡漢民等右派政客三、汪精衛、廖仲愷等の左派の三派が互に争つて居た。併し政府擁護の、第一要件として左派は軍政、民政、財政權の統一を強硬に主張し、遂に之を實現した。その結果其の先導者であつた、廖仲愷は八月二十日反對派の爲めに暗殺された。今日猶國民黨殉難烈士の記念日とされて、黨内では追悼會が催されてゐる。斯る内部の動搖期に於て、香港政府では、暗に陳炯明を助けて廣州に迫らせると共に、商人を煽動して、内部よりボイコツトを

切り崩さうと計畫された。そこで罷業委員會は、廖仲愷事件の數日後、自動的に特許制を取消し、別に商工聯合を形成すると共に各界の代表を以て、外交代表團を組織して北上せしめ、沈顔せんとする、全國の運動を刺戟せしめんとした。

此の國民政府内部の動搖並びに、罷業團自體の財政の窮乏、商人其の他の反動的傾向等を觀た罷業團は、此の頃に及び、漸くその持久戰の益々困難を感じ、こゝに罷業委員會は、適當な條件の下に、罷業を解決することに決定し、九月に入つて香港商會聯合會の代表者が之を調停せんとしたが、當時英國は陳炯明の反攻を極力援助して居た爲め、その具體化を見るに至らぬ間に國民政府軍は、惠州を陥れ進んで、汕頭から陳炯明を省外に驅逐したので、罷工團は再びその勢を回復し、糾察隊の海口封鎖は、東は汕頭から、西は雷州北海の間に擴大した。此の間英國に内援をなした各處の土匪反動軍隊は、到る處で糾察隊と衝突し、中山の戰に於ては一支隊の糾察隊は全滅した位である。

(二) 罷業の第三期 一九二六年一月、國民黨第二回全國大會が開かれたとき、左右兩派の争ひ益々顯著となつて、而かも右派は漸次廣東の勢力を恢復しつつあつた。又一方では張作霖と吳佩孚とが國民軍に對する所謂討赤戰爭を展開し、北方の形勢は漸次彼等の勝利に歸しつつあつた。そこで英國當局は俄然態度を強硬にし一月二十五日罷業解決の停止を宣布し、香港に於ける一切の反英行動に對し、嚴重なる壓迫手段を開始した。即ち商人にして若し、罷市する者あらば其の財産を沒收し、本人を監禁すとの布告を出した。此の時香港の労働者は第二次の罷市に出で、うち約壹萬人は前後して廣東に引揚げた。

(三) 罷業の第四期 三月に入つてから、香港當局も、局面を多少樂觀してかかつた。而して四月九日罷業期間の賃銀及び失業賠償等には應ずることは出來ぬ旨を解決談判の先決條件として宣告した。罷業團側では、三月二十日の事件發生以後は、漸次國民政府内の資産階級が著しく、労働階級から離れて行つたにも拘らず、五月には第三回労働會議を開いて、一層結束を固め、工

農商學聯合委員會を組織して、罷業は民族闘争に係はるものなるが故に、各界聯合して之れが勝利の解決に奮闘せねばならぬことを誓言した。即ち労働者の最大任務は、民族革命運動中に於ける、その役割への奮闘なることを決定された。斯くて労働階級は、民族革命運動の聯合戦線に参加し、その間に労働者組織の擴大と共に、農民黨との同盟の進展に依つて、所謂國民革命指導的地位の獲得に躍進した。而して労働運動の特別の工作としては一、北伐への参加二、香港ボイコットの繼續、三、上海労働者暴動四、農民運動への發展五、政府機關への参加六、國際的活動への躍進等であつた。

斯くて、一九二五年六月以來、一年の間持久戦を續けた、廣東の労働團は、國民革命軍の北伐開始に伴つて、政治外交情態が一時罷業を停止することが、革命援助に利益であることとなつたので、勢ひ對英闘争の方法を變更することとなつた。當時罷業團は三萬餘の失業者を出しうち一萬は政府事業に、五千餘りは、糾察隊に、更に五千は北伐實戦に参加したが、尙八千餘の失業者が出來て、經濟的に非常な困難を感じて居た。即ち廣東政府は六月五日香港政府に對し、交渉開始

を申込み、七月十五日から正式交渉會議が開かれ、七月二十六日まで前後五回の會見が行はれ、支那側の要求は、

『排英の直接原因は、沙面慘案であり、沙面慘案の重要な背景は五卅慘案である。廣東の罷業排英貨は、中國民族主義の帝國主義に對する闘争の顯著なる表示である。今此の解決辦法として支那側の提出せんとするものは、

(一) 第三者の裁判即ち國際仲裁法廷を組織すること。

(二) 兩國關係の速かなる解決の爲め、

(イ) 再び沙面慘案の如き事件を發生せしめざる保障。

(ロ) 沙面慘案犠牲者に對する賠償。

(ハ) 此次の事件から生じた失業者に對する救濟費の支出』

之れに對し英國側では一及びハに就て實業借款の形に於て、黃埔改修と粵漢廣九鐵道の接續費として應ずることを本國に照會することゝなつて、交渉は終つた。其の後交渉は停頓の儘數ヶ月を経過したが、然し廣東政府は、交渉の進行如何に拘はらず、北伐の展開に伴ひ軍費收入の計畫等よりして、九月突如、香港政府に

向つて、十月十日限り罷業を自發的に停止すること、竝に同日より關稅普通品二分五厘、奢侈品五分の増徴實施を通告した。

一方此の交渉開始以來引續き對英示威の、民衆運動を指導して居た罷業工人代表大會は、九月三十日大會を召集し次の如く決議した。

一、革命の實力を鞏固にする爲め、排貨を以て封鎖に代へ、且つ此の新運動を全國に擴大する、それに依つて五卅及び六月二十三日事件が満足に解決され、不平等條約が撤廢されるまでは、此の運動を繼續奮闘する。

二、政府の關稅増徴通告に賛成し、之れが實行を督促し且つ政府が約束の如く其の五收入の一部を罷工々人に充當せんことを要求する。

三、罷工委員會、罷工々人代表會其の他の罷工團體を持續する。

四、罷工者の就職前は、總て從來通りの待遇を受ける。

五、財政部が罷工々人の、經濟的援助に責任を負ふことを要求する。

六、黃埔開港、粵漢路の擴張を實行し罷工々人に職を與へることを要求する。

然して十月十日廣州罷工委員會は、正式に次の布告を出した。

「香港罷工以來、港汕兩地を封鎖したのは、之によつて帝國主義に嚴重なる打撃を加へ五卅事件、六月二十三日事件の奇冤鉅恥を雪がんとするに在つた。幸にして各界同胞の擁護贊助を得て順調し進行を見た。然るに今や北伐着々勝利を告げ形勢變遷し吾人の反帝國主義策略亦改變の必要を來した。故に本會は糾察封塞の前方式に替ふるに經濟絶交擴大の新形式を以てするに決した。此に十月十日正午各處駐防の糾察隊を一律撤回する各部落通過證の發行、船支出口の領照、及び清派騎船員手續等一切を取消し、工商検査貨物所も同様停止する」

如斯罷業團は、前後一年四ヶ月間の持久戦に於ける闘争と、それから得た經驗とは上海労働者の激烈なる闘争の教訓と共に、應て中國労働階級の前に展開された、政權獲得ソヴェート建設の、直接闘争に於ける基礎となつたのである。

第四節 白色恐怖出現前の闘争

第一、前期に於ける闘争の繼續

上海労働者の、五卅運動中に於ける非常な活動は、當時の支配權者であつた、

奉天軍閥の壓迫によつて、上海總工會の封鎖によつて、その運動は一時鎮壓された。然し南京に居る五省聯盟總司令孫傳芳が代つて、上海を支配するに及んで、總工會が自發的に復活を宣言した。而して第三回全國労働大會の終了と同時に、上海労働者の新しい闘争が開始せられたのである。即ち第三回大會の諸決議は、此の新しい闘争の上に直ちに具體化され、五卅事件の翌年五月一日の「デー」の示威運動に於て、上海労働者は五卅運動の繼續運動を宣言し、其の第一週年紀念日から、猛烈な運動が開始せられたのであつた。

五卅事件紀念日に方り、上海に於ては未曾有の民衆示威運動が行はれた。上海總工會では豫め、卅日、卅一日の兩日、外國工場に示威罷業を命じた。卅日は日曜であつたので、自然と休業の形となつたが、翌日は十七個の外國人工場、六萬の職工が完全に罷業した。學生等は約三十の學校を全部罷業して、示威運動に参加し、租界の商店も大部分罷市を實行した。此の政治的示威罷業に次で、各種の經濟的罷業が猛然として起つた。五卅紀念日から、三週間の間に四十次、三萬人の罷業が行はれ、次の一週間に罷業は、六十次、六萬の人員に増加した。此の罷

業は内外棉三、四、五、七、八、九、十二、十五の各工場、電車、印刷、煙草等の大産業が含まれて居た。之等の原因は電車罷業が水兵との衝突に關係した以外は、全部賃銀値上待遇改善の要求であつた。併し内外資本家共通の態度を以て強硬なる策戦を試みた結果、上海總工會等は六月二十七日再び封鎖さるるに至つた。然れども、上海労働者の生活の極端なる困難と、闘争に對する過去の経験と、資本家に對する階級的な目覺めとは、總工會の表面的な解散に影響する所となり、益々罷業の數を増加して行つた。かゝる上海労働者の戰闘的な客觀的條件が、如何なるものであつたかは、總工會が解散を命ぜられたとき發表した、左の宣言が最も明瞭に之を物語つて居る。

『生活程度は、二三年前に比し、四〇%を増して居るのに拘らず賃銀は變化せず、假令幾分増加を見たものと雖も、前述の比率には遠く及ばない。上海労働者の毎月の所得は、多くて二三十元、大部分の平均は十二元である、然るに一人毎月食事として、最少六元、家賃二元、理髮、入浴、洗濯、靴、衣服費等二元、車代、菓子、煙草其他雜費一元五十仙之れ丈で既に十二元を超へる。然か

も彼等には父母もあれば妻子もあらう。一人生活に十二元以上要するの如何にして家族を養つて行くか？賃銀増加を要求して容れられず、遂に罷業に出る、之れは己むを得ない話である(中略)加ふるに上海の工場はさながら、地獄に等しい、生命は任意に摧殘され、死傷に撫恤なく、故なく解雇され、打罵牛馬の如く、罰金、控除、施缺は工人の窮狀を顧みない……(下略)』
要するに總工會が解散された六月末には、全市に於て百七の企業に罷業が行はれ、六萬九千五百五十六人の労働者が参加して居る。その原因は政治的のもの一、工會承認に關するもの二を除き、全部が賃銀値上げ、待遇改善にあつた。而して内四十九件だけは労働者の勝利となつたのである。

解散された上海總工會は、七月十一日全上海労働者の爲めに、所謂最低總要求十一ヶ條を發表して、尙も労働者の闘争を指導して居た。斯くて七月には、罷業参加工場數百八、参加者七萬四百九十四人であつたが、此の間日本紡績工場では、會社と職工との間に絶へず、不穩状態に置かれて、小衝突は日夜繰り返へされて居たが、八月二十日に至り、工場閉塞反對、虐待反對、待遇改善、賃銀値上を要

求して、上海紗廠總工會はゼネラルストライキを宣言した。それと同時にその前月日本人に殺されたと言ふ、陳亞堂事件の公平なる解決を主張した。

此月に於ける、一般罷業状態は大なる變化なく、六十企業、二十三次の罷業が續けられ、人員約三萬、内五十日を超へたもの八千人、一個月を超へたるもの、一萬七千人に及んで居る。

恰度此頃であつた。蔣介石の北伐軍は既に岳州を陥し入れ、武漢を占領した。それが爲め、南京の孫傳芳は、革命軍に對する戦術の上からも、上海其の他に於ける労働階級の活動を、徹底的に彈壓するの必要に迫つた。然し九月英艦の萬縣砲撃事件發生し、全國の反帝國主義民衆運動は、再び勢いづいて來て、上海労働者の政治闘争への發展が、同時に氣勢を擧ぐるに至つた。而して此の上海労働者の激烈なる闘争は、當局の戒嚴的壓迫の下に在りながら、尙凡有形式の下に繼續されたのであつた。

第二 上海の暴動

(一) 第一次暴動 孫傳芳が南昌を失ひ、浙江の夏超が獨立を宣言したときであ

つた。十一月二十三日此の騒ぎに乗じて上海では、第一次の暴動を起した。然し其の頃までは孫傳芳の實力も未だ、消滅しては居なかつたので、夏超の獨立も忽ち失敗に終つた。また労働者の方でも、此種の暴動に對する充分な準備が無かつた爲め、忽ち失敗に終つたが、然し當時上海各馬路商會聯合會が、『上海の市政は、上海市民及び工商學團體聯合總會の組織する、市民公會に歸すべきものである』との政治宣言を發した事は、此の暴動の生んだ、重大な結果であつた。

(二) 第二次暴動 北伐軍は、一九二七年二月十八日、遂に杭州を占領した。その翌日上海總工會は戒嚴令の裡にありながら、上海各工場労働者に對して、ゼネラルストライキを命令し、同時に次の如き宣言を發した。

『國民革命運動は、五卅運動以來益々高潮し、東南を統治する軍閥孫傳芳は、既に失敗して居る。是れ革命運動の健兒の奮闘の力であり、特に吾人革命民衆不斷の反抗の力である。上海は、上海市民の上海である。我が上海市民は、軍閥の壓迫下に苦しむこと既に十數年、帝國主義列強は、上海を以て中國侵

略の根據とし、今や更に武力を以て我が國民運動を威嚇せんとして居る。我が上海市民は、皆軍閥の暗黒統治を推翻し、帝國主義の侵略に抵抗せんと欲して居る。我が全上海の工人は、五卅事件以來、勇敢なる先鋒として、國民の自由と解放との爲めに奮闘した。現在軍閥孫傳芳の勢力の潰敗の時に當り、又帝國主義者が、権力と武力を以て、我を威嚇屈服せしめんとする時に當つて居る。暗黒と反動の勢力を倒さざれば、吾々人民は永く、自由解放の日を得られない。此の暗黒と反動の勢力とに推倒せんとするには、人民は起つて、罷業、罷市、罷課を以て、之に抗議しなくてはならぬ。吾々工人は今此の抗議の先驅を爲す、革命民衆は、宜しく行動を表現し、其の行動を以て軍閥勢力の消滅を促進し、北伐軍の勝利を幫助すべきである。本總工會は、全上海工人を號召し組織あり、秩序ある手段を以て、即日總同盟罷工を宣言し、以て革命民衆権力抗議の開始となす。以下十七條は、上海工人の政治並に經濟上の最低要求を示すものである。』

一、反帝國主義運動の繼續

- 二、軍閥暗黒勢力の政治を消滅すること
- 三、一切の反動勢力を肅清すること
- 四、眞の人民の利益を保護する政府を建立すること
- 五、集會、結社、言論、出版、罷工の自由
- 六、工會が工人を代表する権利の承認
- 七、賃銀増加、最低賃銀の制定
- 八、物價高騰の制限、工人生活の保證
- 九、八時間労働制
- 一〇、日曜祭日の休息と賃銀支給、休息せざる場合は平日の倍額の賃銀支給
- 一一、失業者の復業、罷工に對する工場閉鎖の禁止
- 一二、打罵、罰金、控除の禁止
- 一三、随意に解雇せず解雇には工會の同意を要す
- 一四、作業による死傷者撫恤金制度
- 一五、病人醫治費の工場主負擔と半額以上の賃銀支給

一六、男女の同工同酬、女工少年工の待遇改關、産前後六週間の休息と賃銀支給、少年工の過重工作禁止

一七、工場設備の改善

斯くて、罷業第一日には全市紗廠、法界及び公共電車、郵電等重要産業を中心として十五萬の罷工を見た。第二日には二十七萬五千、第三日には、全碼頭労働者等全部参加し、三十萬を突破し、第四日には卅六萬に達したと稱せられてゐる。

罷業開始と同時に所謂白色テラーが開始された。労働者や市民は街路で頻りに斬られた。或者は立つて宣傳ピラを讀んで居る處を斬られ、又は銃で撃たれた。逮捕された者は租界の内外を問はず、労働者及び市民の逮捕された者は此の間に約百名は殺され或は負傷した。それが爲め労働者側では、二十一日の夜から各處に武装奪取の行動を開始し、二十二日から翌二十三日の夜にかけて、労働者は積極的に警察や歩哨線等を襲撃した。それと同時に、二十二日上海各階級——商人、労働者、學生——と中國共產黨國民

黨左派の代表は、上海市民臨時革命委員會を組織した。が之は中國労働者が政權獲得への闘争の、最初の具體的表現であつたのである。

然るに之等の闘争は、所謂赤手を以てする突撃であつて、闘争が繼續すればする程、犠牲者を増すのみであつたので、遂に總工會は、二十四日左の復工命令を宣布した。

『本會總同盟罷業を命令した後、命に依つて行動せるもの、即ち、四十萬の有組織工人は數時間を出でずして一致の行動に出て、軍閥の統治は立所に動搖を來たした。繁華富麗な上海は忽ち變じて革命風雲瀾漫の區域と變じた。此次の闘争は實に我が全上海労働者の五卅事件以來最初の光榮ある偉大な闘争であつた。罷工五日、市民の暴動迭々起り、革命的海軍は砲を開いて敵人を轟撃し、革命的工人と兵士の聯合の偉大なる大徴兆を表示した。吾が工人の力量は既に敵に認められた。本會は奮闘の長きは却つて作戦を孤立に陥入れ、損害を過大ならしむるものなる事實に鑑み、特に全體工友に命じ、本月二十四日午後一時、一律に復工し養精蓄銳、一層大なる

奮闘を準備せしめる。』

斯くて、二十四日午後より、二十五日朝にかけて約三十萬の労働者が命に依つて復工した。

(三) 第三次暴動 三月二十日國民革命軍は、上海からあまり遠くない、龍華を占領した。その翌日上海總工會は、第三次總罷工を命令した。此の總罷工は、孫傳芳軍に代つて上海に據つて居た、張宗昌に對する組織的計畫的暴動であつたのであつた。此の闘争は中國労働者の最初の革命的組織的市街戦であつたのである。

『革命時機熟した時、總同盟罷工直接群衆暴動となり得る。時機未だ熟しない時は、群衆は不斷の武器奪取の闘争に出る、武装が軍閥の手にあれば白色テラーとなり、之れを群衆に奪取した時、革命的武装闘争が即ち爆發する『中略』吾人の今次の暴動は、マルクス及レニンが教へた理論の實行である。』

と云ふのが上海總工會指導者の宣言であつた。

三月二十一日正午から、罷工を開始した上海の労働者は、南市、虹口、浦東、吳淞、滬東、滬西、閘北の七區に分れて、警察及殘留直魯軍の攻撃を開始した。鐵道は直に破壊され、電話局、電信局は占領され、水道電燈は切斷され、群衆は少數の武装糾察隊を先頭として、各處に武装奪取を開始せられた。南市では全警察を占領し、兵工廠、停車場等をも占領した。虹口でも殆ど全區域武装糾察隊で固められた。浦東では之れ又數時間を出でずして、糾察隊と商人の保衛團とで臨時保安局を組織すると共に、浦東人民代表會なる自治機關を建設した。吳淞では前線から逃れて來た、畢庶澄の潰兵の武装を解除し、區民大會を組織した。滬東では吳淞から逃れて來た。潰兵と數時間闘争を行ひ、二十二日朝之れを驅逐した。滬西でも時を同うして全警察を攻撃して目的を貫徹した。

斯くて暴動は最後に、閘北二十餘ヶ所に残つた、直魯軍との戦闘の爲めに集中され、二日一夜に亘つて雙方對峙したが、二十二日午後六時白崇禧の先鋒隊が到着して、國民軍が上海を完全に占領すると共に、第三次の暴動は遂

に終りを告げ、鐵道労働者は直ちに破壊された鐵道の恢復に着手した。民衆は爆竹を鳴らして革命の成功を祝福したのであつた。

この上海總罷業の目的は上海をして一切の軍閥の支配より脱せしめ上海市民自らの政府即ち、自治政府の治下に置く事にあつたのであるが、その實は共產黨が自治政府の内部に在つて彼自らの主張を實行し、上海全市をして完全に自治の勢力下に置かんと陰謀であつた事は否定することは出来ぬ。恰も第三次總罷業斷行の命令の發せらるゝ一時間前、即三月二十一日午前十一時共產黨系に屬する、上海特別市黨部は行動委員會なるものを開き、上海に於ける黨務及政務の最高機關として、臨時聯席會議を組織することを決議し、江蘇省黨部、江蘇特務員等と合同して、その委員を選出して、中央黨部に對しては左の三事項の認可方電請するに至つた。

- 一、上海市民代表會議にて上海市政府委員を選擧の件
- 二、上海臨時聯席會議を上海黨務の最高機關となすの件
- 三、上海政治分會が成立するまでは上海臨時聯席會議を上海の政治的最高權力機

關とするの件

更に市黨部に於ては八十年來帝國主義の根據地たりし上海の市民は、今や國民黨旗の下に奮起して久しく失はれたる自由平等を恢復し、上海の民治を實現し北伐の完成を期すべきであるとの宣言を發すると同時に、上海民衆の共同目標事項二十二項を掲げた。其の主なるものを擧ぐれば左の通りである。

- 一、北洋系軍閥の殘餘勢力を剿除す。
- 二、官僚學閥劣紳土豪を剿除す。
- 三、一切の反動勢力を肅清す。
- 四、人民を領導して市民政府を組織し國民政府に直屬せしむ。
- 五、租界を回收し不平等條約を廢除す。
- 六、海關を回收し關稅を改正し中國銀行團にて關稅剩餘金を保管す。
- 七、人民の集會結社言論出版の完全なる自由を保證す。
- 八、農工及小商人を扶助し工會農民協會商民協會を組織す。
- 九、工人店員、徒弟を優待し勞工保護法を確定し、女工幼年工の保護に特別

注意す。

十、勞資仲裁會を設け勞資紛争を調停す。

十一、各機關に服務する婦女は産前産後は二ヶ月間の休暇を與へ其の期間の賃銀を支給す。

而して、その翌二十二日上海臨時市民代表大會を開催して、臨時市民政府組織を決定し、臨時政府委員を選出して元上海縣知事公署を、上海特別市政府と改めて事務を執行することゝなつた。

一方總工會に於ては、三月二十七日上海郵務總工會、手工業總會、紗廠聯合會以下一千餘の工會と、軍界、政界、其他公共團體三百餘の各代表を召集して、全上海工人代表大會を開催して、大要次の如き決議をした。本會の目的は、上海に於ける労働界を、完全に自派の支配下に收めんとする準備であつたが、斯くも共産黨一派が、政界にも労働界にも勢力を伸張して、其の主張する處を端的に實行せんと試みつゝあつたのであるが、これが爲め後日國民黨右派より彈壓を受くることとなるに至つたのである。

- 一、租界の回收
- 二、一切の反動派の肅清
- 三、國民政府及上海市民政府の擁護
- 四、工人の武装自衛
- 五、工人の地位及知識の向上
- 六、工人の待遇及生活の改善
- 七、工人運動の統一

第五節 所謂白色恐怖

第一、對共クーデター

一九二六年十一月より、七年三月にかけて起つた、上海労働者の第三次の總罷業は何等經濟的意味を含まれたものではなくて、全く國民革命軍の上海占領を誘導援助する目的を以て行はれた暴動であつた。此の罷業暴動の結果一千七百餘の小銃と、四十餘の機關銃と、多數の彈藥及爆彈を獲得し、二千七百人の武装糾察

隊を編成して警戒に努めてゐた。漢口では其の年一月に英租界奪回事件があり。三月には南京事件が起り、長江一帯の経済的基礎は根本的に破壊され、外國人に對する掠奪殺人實に慘憺たるものがあつた。革命民衆の前には國際道徳も、國際信義もなく、唯反帝國主義、反資本主義、打倒軍閥が最大の目的であつたのである。それが爲め各國は、軍艦を増派し、軍隊は陸續上海に送られ、租界には土壘鐵條網を張り、極力労働者民衆の暴動を警戒して居た。英國は、前年の萬縣事件に懲りて、其後は暴動に對し絶對銃器の使用を戒めて居たので、暴動は一層其の弱點に付け込んで、極端な排英排貨をやつたので。多年築き上げた長江一帯の経済的基礎は、根本的に破壊さるゝに至つた。其の際英國では、歐洲大戦争以上の兵を動かしたとさへ傳へられて居た。然し其の頃、無闇みに武力を以て革命民衆を壓迫することを許さぬ、事情にあつたので、唯軍艦を列べて威嚇して見たに過ぎなかつた。斯くて革命軍が上海を占領し、完全に長江以南の支配權を得た、國民黨では、既得の支配權を確立して、更に之を北方に伸ばして行つた。其の頃國民黨首腦部では、總工會や共產黨の指揮する、之等暴動行爲には少なからぬ迷

惑を感じて來た。上海は完全に、左翼勢力の支配下にあつたが。四月に入つてから、愈々國民黨内左右兩派の軋轢は一層其の度を加へて來て、蔣介石は李濟琛、白崇禧其他の將領と上海に會議を開いて、四月十二日上海廣東、福建、浙江各處南京等で、一齊に左翼派に對し彈壓を開始し、一切の左派組合の組織を破壊し、労働者及農民の闘士に對し躊躇する處なく殺戮を實行したのであつた。此のクーデターに於て、廣東一省のみで二千人の労働者農民が殺傷された。上海では四月十二日午前四時北閩軍第二十六軍が、上海總工會本部糾察隊本部其他糾察隊の駐屯せる八ヶ所を襲撃し、各處で労働者の反抗に依つて流血闘争が行はれ、幾多の犠牲者を出したが、結局其の日の内に糾察隊は全部武装を解除さるゝに至つた。其の翌日總工會では、之れに對抗する爲全上海工人のゼネラルストライキを命令し、十四日總工會に於ては労働者大會を開き。

一、武装回收

二、工會破壊上官の處罰

三、犠牲者の撫恤

四、帝國主義者への抗議

五、中央政府及全世界への援助要求

六、上海總工會の擁護

等を決議し示威行列を以て、寶山路二十六軍第二師司令部に請願に向つた。處が街路の各所から、軍隊が突然群集に向つて、機關銃で、一齊射撃を行つて群衆三百餘名を殺傷し、以て此の大衆示威運動を鎮壓した、この所謂白色テラーは、武漢政府の没落と共に、全般的に擴大し痛烈に行はれたのである。

第二、左翼運動の反撥

此の清黨運動に依つて、一齊に左翼派各機關の封鎖を受け、一時一切の労働運動は鎮壓されたかの觀があつたが、實際は其の後と雖も運動の手は緩められなかつたのである。

その第一着手は左の如く四月二十四日上海共產黨執行委員會より、全上海労働者に宛て、發した激勵の通告である。

『全上海の工友諸君！

上海に於ける過去三回の總同盟罷業中我等革命の工友は、幾多重大なる犠牲を拂ひ、三月二十一日の武裁暴動中に在りては、肉薄二晝夜の久しきに亘り、直魯殘兵の武装を解除し、偉大なる民衆の力量を表はし、民主政治を樹立するの偉業をなせり。然るに圖らずも革命を以て旗幟とする、軍隊の統轄下に於て、四月十二日の人を騙きたるクーデターの事件ありたり。これ中國資本階級が、外に於ては一切の帝國主義と結託し、内に於ては一切の封建勢力と結託したる必然の結果なり。即ち蔣介石は資産階級を代表し、土豪劣紳、流氓、買辦と結託し、帝國主義の意旨を受け、革命の農工民衆を虐殺したるなり。

抑々國民革命の目的は外に在りては、一切の帝國主義を打倒し、内に在りては軍閥及一切の封建勢力を打倒するに在り。此目的を達成する爲には、常に軍隊の奮闘に待つのみならず、各階級民衆の團結の力を借らざる可らず。然るに蔣介石は資産階級の手先となり、至る處農工の革命行動を壓迫し、個人獨裁の幻想を畫けり。これ革命の中心勢力を破壊反動分子の勢力を挽回せしむる行爲なり。

全上海の工友諸君よ！我等の生命は生死の關頭にあり。蔣介石が資産階級を代

表して南京政府を組織したるに於ては、我等は益々其の責任を自覺し、一致して帝國主義大資産階級の代表政府を打倒し、民主政治の實現を期すべきなり。

我等の生きる路は決心と奮闘とにあり。我等の解放は只一條の聯合戦線に在るのみ』

而して五月一日には、各地に猛烈なる示威運動が行われた。上海に於ては右翼團體の統一の目的の爲めに設置された、上海工會組織統一委員會の指揮の下に『今日此記念日に當り、多くの地方は軍閥と資本家との爲めに、この記念大會を禁止してゐるのであるが、我等工友たる者は、今日此處に公然青天白日旗の下に此盛大なる記念大會を舉行するに於ては、必ずや労働者の利益を擁護し、その生活改善を主張し、眞に八時間の労働、八時間の教育、八時間の休息等の目的を達せしむべきである。我等は其到來を樂觀して望むと共に、熱烈に國民黨主義の實現と、國民革命軍の成功とを祈る』と言つたやうな聲明書を發して、メーデー記念大會を開催して、各種のスローガンを配布された。その裡にあつて共產系の總工會では次のやうな宣傳大綱を發表して、宣傳に努めてゐたことは、甚だ興味を

添へて居たことである。

一、五月一日は、世界の工人階級が、資本家に向つて威を示した記念日である。
二、中國の工人は、帝國主義と中國資本家の、兩方より壓迫されてゐる。
三、中國の新舊軍閥は、帝國主義と聯絡し、中國資本家を保護し、工人を壓迫するものである。

四、今年の五一記念には、新舊軍閥が工友を慘殺した、歴史を忘るゝ勿れ。
五、孫中山先生の農工政策は、農工を解放するものであつて、武装農工は、國民革命軍の主力をなすものである。

六、右派の捏造せる、孫中山先生の農工政策は、資産階級と大地主を保護し、農工を屠殺し、農工の武装を解除し、工會農會を破壊し、罷工を禁止し、示威を排斥し、農工を欺くものである。故に右派は、蔣介石の私黨にして、彼等偽政府は、農工を壓迫するものである。

七、工會は、工人階級自ら之を織し、工會の領袖は、工人自ら之を選舉すべきものである。然るに右派の組織せる、工聯總會統一委員は、蔣介石が工賊、流氓

を買収して造りたる御用機關である。八、中國工人階級の解放は、工人自らが奮起し、全國總工會と、上海總工會の指導下に在りて、帝國主義を打倒し、新舊軍閥を打倒し、資産階級を打倒し、民主政權を實現するにある。

斯くて、五月二十日から、漢口に於て太平洋労働會議が開かれ、支那の労働運動をして、一躍國際的労働の活舞臺に進出せしむるの機運となり、六月十八日より武漢に於て、第四回全國労働大會を開いて、新たな階級的獨立性の支に依つて、闘争を開始されたのである。それが八月に入つて、右翼國民黨の内訌に依つて、遂に蔣介石の下野となり其の虚に乗じて、共產黨に於ては、再起運動に大なる利便を與へられたのであつた。十月十四日には、海員工會が大規模なる罷業を開始し、警察を逐つて、組合事務所を奪回した。此の機に應じて、各種労働者も亦盛んに、示威罷業運動を行つたので、海員工會は直に封鎖されたが、一般労働者の運動は、此の時から益々積極的となつて、十一月七日のソヴェート革命記念日には、軍隊と労働者との激烈な、抗争が行はれたが。その間にも盛んな、示威

運動が實行されて居た。十二月に入つて郵便海員乗合自動車其他各種労働者の罷業頻發し、大に騷擾を極めたのである。

第六節 廣東の暴動と對露絶交

第一 廣東ソヴェート政府の樹立

廣東の農民労働者は、四月の事件に反抗して、暴動を起し、九月に這入つて、更に第二次の暴動が勃發し、續いて各地で第三次の大暴動が開始された。即ち十月十一日午前四時十五分、突如共派が驟起し、約五千名の共產軍は、一齊に廣州の公安局各警察を襲つて、武装を解除した上監獄を開ひて、囚徒を解放した。一方政府の各官廳たる、第四軍本部、廣東衛戍司令部、廣東省政府、省黨部、財政廳、軍事廳、電話電信局、中央銀行、各停車場等を占領し、各所に於て張發奎の守備兵と交戦して、之れを驅逐し、完全に全市を占領するに至つた。

此の政變に於て、廣東は掠奪放火相次で起り、各商店は閉店し、市中には紅布の、腕章を附けた武装農民と、工人とが、鋤や、鍬や、斧を持つて、横行するの

外一人の行歩もなく農工人の敵である「李濟琛、蔣介石、張發奎、汪兆銘を倒せ」
「反革命の國民黨を倒せ」「農民には耕す田あり」「工人には食ふ米あり」「民衆に平和を與ふるものは、唯ソヴエート農民兵士あるのみ」等の宣傳ビラが各所に貼られ、赤旗飛揚して物凄い景況を呈したのである。

斯くて共産軍は、十一日午後二時中央公園に、工農兵代表會議を開き、之を以て政治上の最高機關となし、廣東ソヴエート政府の成立を宣布し、各政府委員を任命した。南京政府では十二月十二日會議を開いて、協議を行ひ、直ちに、廣東共産黨討伐令を發して、李濟琛と白崇禧とをして、左右兩方面から廣東を夾撃せしむると共に、廣東の李福林等をして、廣東政局の恢復策を講ぜしめた。而して十二日から廣東の奪回戰を開始し、十三日に至つて共産黨を完全に驅逐して、漸く廣東の政局を恢復することが出来て、茲に事變も一段落を告げたのである。

第二 對露國交斷絶

國民黨では、廣東の共産黨暴動は全く、廣東勞農領事館の陰謀に依るものである、との理由の下に、總領事以下館員十餘名を捕縛し、副領事ハツシツ外四名を

十五日銃殺したのみならず、共産黨肅正の目的を以て、市内に潜伏して居た、共産派を狩り出して之を逮捕し、日々百數十名を銃殺し、極端な壓迫を加へた。

此の廣東の擾亂は、共産革命を標榜する純然たる暴動であつて、先きに對英罷工委員長として辣腕を揮つた、蘇兆徴を初め葉挺其他の共産派の陰謀に基いたものであつて、初めから計畫的に行はれたものであつた事は、疑ふ餘地のない事柄であつた。不幸にして、それが僅かに、三日天下に終つた事は、彼等の遺憾とする處であつたらうが兎も角江蘇の大暴動に次ぎ、南支の一角に於て、一日たりとも、赤色ソヴエート政權を確立し得た事實は、支那の共産運動史上で最も、特筆するに値する事柄であつたのである。

然して、南京政府では、此の事件の後を見て大いに驚いた、豫て各省に存在する露國領事及び通商機關が、赤化宣傳の本部となつていた事實が明瞭となつたからである。然して最近江蘇省に於ける共産黨暴動に對して、警戒を怠らなかつた際であつたので、此の事件を機會に露國の支那に於ける勢力を一掃し、以て共産黨の潛勢力を撲滅せんが爲め、斷然南京政府の治下にある、露國領事館及び通商

機關を閉鎖することに決し、十二月十五日正式に露國に對し、國交斷絶の聲明を發し、同時に一週間以内に駐支露國領事並に館員の退去を要求するに至つた。之れに依つて國民政府外交部では、各省交渉員に對し地方官と協力して、露國々營商業機關、遠東銀行、商店其の他の業務を一齊に停止せしめ、軍隊と警察を派遣して嚴重なる監視を命ずるに至つた。

之れに對し勞農政府外務委員長チチエリンは、十六日上海の露國領事を通じて嚴重な抗議を申込んだが、事情如何とも爲し難く、漢口總領事館員及其の家族は十六日同地を引揚げ、上海總領事館員及家族は總領事を残し、二十一日同地を出發、日本經由浦鹽に去つて行つた。廣東の總領事館員は當時、全部公安局に拘束されて居たが、之又翌年の一月釋放されて歸國の途に就くに至つた。

如斯國民政府に於ては、對露絶交と共に嚴重に共產黨員の運動に對して取締り罷業禁止の嚴命を發して、極力彈壓を加へることとなつたことと一面各企業家側に於ても之等の爭議が決して經濟的な理由を有するものではなくて、殆んど總てが政治的意味を有するものであり、而もそれが共產黨系運動者の指導に依るもの

であることを察して、案外強硬な態度を持して之に對した爲め、各爭議に於ける労働者の鋭鋒も漸次鈍り、年末に近づくに従つて労働界は一般に、稍平穩に復するに至つた。

第七節 對露絶交後に於ける労働運動

第一、第二次北伐前後の闘争

廣州暴動の結果として、極端な清黨運動が行はれ、爲めに全國労働運動は非常な壓迫を受けることゝなつた。國民黨側では共產黨の復讐的陰謀を怖れて、その對策に努め、先右翼御用組合を組織して、全然國民黨の指導の下に置き、反對工會の存在を許さなかつた。又各種労働問題に對しては、調停政策を用ひて勞資協調の主義を採り、専ら共產黨の乗ずる機會を防止することに努めた。一九二八年一月、國民政府が、第二次北伐革命軍を起し、北進するに及んで、各地に多數の工會が成立したが、之等は全然國民黨の地方黨部の下に直屬する御用團體であつたので、罷業暴動を起すが如きことはなかつたが、北伐軍が北支那を征服した直

後、即ち一九二八年七月に開かれた、國民黨中央執行委員第五次全體會議に於ては、國民黨の内訌の關係から、左派の主張する『民衆運動方案』が通過して、過去の民衆運動を復活せしむることを本旨とする、主張を認められた爲め、會議閉會後に於ける國民黨中央黨部の空氣は、益々反動化して來て労働運動の指導も右翼の主張に基づいては居たが、地方黨部には左翼分子や共產黨系のものが居たので、其の影響を受けて、御用組合内にも共產黨の勢力が瀰漫して來て、時々過激な行動を見ることゝなつて來たのである。

斯くて一九二八年九月六日、北京の日本側機關紙である、漢字新聞順天時報排斥運動に依つて、市黨部指導委員李樂三が各取扱店に對して配達中止方を申渡した。又郵送中の新聞は、同地郵便局で郵務工會が市黨部の指示に従て、燒棄して仕舞つた。其の工人側の暴舉に對し、當時副郵務局長劉耀庭は、其の不法行爲に反對して、公安局に對し軍警の派遣方を要求し、極力之を取締り、工人を壓迫した爲め、工人等の非常な反感を買ひ、十一月一日朝から全市郵便局の總罷業を始めた。而して各郵務局には、工會から糾察隊を出動して結束を固めて居た。當局

でも之には甚だ閉口し、此上壓迫を加へようものなら、總工會が動き出さぬとに限らぬ形勢にあつたので、已むを得ず夕方になつて讓歩して、工人の要求せる劉副郵務局長を、三ヶ月以内に免職することを聲明したので、茲に妥協が出來て、即日罷業を取り消し、翌日から復業した。當局が何故如斯早く讓歩したかと言へば、郵便事務は公共事業中でも、國際的に關係を有するので、此點を憂慮して解決を急いだのだと言はれて居る。

一處が、翌二日上海の郵務局では、總局以下二十三分局の工人二千五百餘名が、要求事項十六ヶ條を提出して總罷業をやつた。同時に各地の郵務工會へ、應援の電報を發して聲援を求めた、天津の郵務工會でも、其夜郵務總局で幹部四十五名が集つて應援依頼に對する協議をなし、次の様な決議を爲したのである。

- (一) 上海郵務工會罷工委員會と聯絡して行動すること。
- (二) 郵務工會から八名、總工會から二名、市黨部委員會から一名、公安局から一名の委員を出し、罷工委員會を組織して、三日に委員會を開いて宣言を發すると同時に行動を開始すること。

北京でも、一日の罷工に成功したのに味をしめ天津、上海の郵務工會に呼應して運動を起した。此度は待遇改善の要求であつたが、若し拒絶されたら、即時總罷工をやると言ふことを決議した、此の頃既に天津地方へも、共産黨の手が廻つて居たのであつたが、共産黨の名を以てすることは不利益であるので飽くまでも潜行的に、先づ破壊された黨の復活に努めて居た頃で、恰度郵務工會の爭議は渡りに舟ありであつたのである。現にこの郵務工會の罷業前九月十一日に『國際青年デーに際し青年工友に告ぐ』と題する宣傳ビラを中國共産主義青年團順直指導委員會の名で、密かに京津各地へ撒布して、共産宣傳に努めて居た事實があつたのである。

そこで、愈々工會の態度が決すると、市黨部でも考へた——輕舉は一般の信用を害するばかりでなく、共産黨に乗ぜられる虞れがあると云ふので、總工會へも其の旨を注意する處があつた。又中央黨部でも、元來支那では郵務工人の待遇が一番よく出來て居るので、此の上待遇改善など無理な要求は、却つて同情を失ふことになり、且つ治安上面白くないと云ふので、罷工を阻止する様市黨部へ内命しまつた。

たので、要求條項の内容を改めさせて骨抜にしてしまつたので、一時險惡であつた天津、北京の郵務工會總罷工の形勢は、漸次軟化して有耶無耶の間に無事に治まつた。

上海に於ては、郵務局は他の事業と違つて、國際的の關係を持つて居るので、工人の總罷業と同時に外支人總出で、郵便物の整理をやつたが、罷業が永引きするるので、日本人の郵便義勇者を募ることになつて居た。一方罷工團では、全國の郵務工會へ應援電報を發するやら、宣言書を發するやら、大變な騒ぎをやつた。又共産黨側では、上海を中心に共産黨江蘇省執行委員會が、捲土重來の機をねらつて、劍を磨いて俟つて居た頃であつたばかりか、既に其の頃郵務局、商務印刷所、商務印書館、新聞、南洋煙草、英米煙草、電氣の七大工會には、完全に共産黨が手を廻し勢力を扶植して居たので、郵務工會の罷工を始めると此の七大工會内部にも動搖をはじめた、其の他鐵道電車の工人にし飛び火しそうな形勢を示して居た。天津、北京等の郵務工會でも前に述べた様に上海の郵務罷工委員會と聯絡して、行動を共にする等の決議をなし、全國的に動搖して來たので、國民政府

では形勢險惡と見て、中央黨部を通じて各地市黨部に對し、大局の安定を害する此種事件は速かに停止せしむるよう命令を發して、取締を始めた爲め、工會内部の結束が亂れはじめて、上海では六日の朝から、一齊に復業した。そのとき罷工團代表二名は、上海市黨部及市政府等と共に其の朝本問題解決交渉の爲め、南京に赴いて先決條件として、

- 一、劉郵務總辦を免職すること。
 - 二、郵務職工會を解散すること。
 - 三、十六ヶ條の要求は、十一月十六日迄に満足な回答を得ること。
- 等を政府に要求し、若し期間内に圓滿解決が出来ねば、第二次の大罷工を行ふと言ふことを聲明して上海へ歸つて來た。

この罷工は暴動を起すことが目的であつた、それが爲には罷工を擴大せしむる必要上、罷工人から選抜した敢死隊を組織した。敢死隊は軍事委員會に直屬させて、露西亞歸への血氣盛んな青年五名を以て之が指導の任に當つて居たのであつた。以上の如く市黨部の對抗運動に依つて、結局罷工は四日間で復工すること

となつて、失敗に終つた。此の罷工は十月一日夜共產黨江蘇省委員會から命令したものであつて、豫め蘇兆徴、黃平などが、上海に入り込んで、工會を指揮して居たものであるとも傳へられて居る。

廣東郵務局でも、當時上海本部からの密電に基いて、秘密會議を開いて協議をした結果、同情罷工即時實行に就て、賛否兩説相半して決することが出来なかつた。その中に上海の形勢が變つて來たのと、廣東郵務工會では實際準備が整つて居なかつたので、遂に立ち遅れの形となつて、罷工を中止することとなつたが、これも今後の行動を考へると、盲動は互に戒めた方が利益であると言ふ、結論に達するからであつたのである。

其の外、國民政府の調査に依ると、上海で比較的大な罷工が、四月から九月迄に、九十九件十二萬六千八百八十五名に達したことになる。

其の頃最も重大なストライキの一つに、湖南安源に於ける鑛山のストライキがあつた。賃銀問題から、遂に工人等は武装して、事務所及鐵道を襲撃し、會社の金を掠奪して、労働者に分配した。政府が軍隊を派遣した時はストライキは止ま

つて居た。然し軍隊が引揚げると。再びストライキを開始された。而して一ヶ月間の闘争に依つて労働者の要求は遂に貫徹されたのである。

江西磁器労働者の五月のストライキは、参加人員約三萬同じく賃銀値上げ問題が原因をなして居たが、軍隊が派遣されるや武器を奪ひ取つて、軍隊を驅逐し、その本營を占領し、遂に勝利を得た。尙山東の炭礦及び膠濟平綏、津浦、各線でも主として延滞賃銀の支拂要求から闘争を行はれたが、各部分的に労働者の勝利を得て解決した。

其他汕頭の電気労働者の、賃銀増加要求、廣州石油工場労働者の解雇反對、麵粉労働者の労働條件恢復、廈門のブリキ労働者、運輸、石灰、船夫、蘇州の絹布労働者、杭州の木綿労働者、寧波の織物労働者等無數に小闘争が行はれたが、上海では六萬餘人の絹絲紡績女工が工場内の巡警の爲に、一人の女工を虐殺せられたことから罷業を起したが、最後に労働者中特権つけられて居た、最も高給賃銀を支拂はれて居た、前述の上海郵務局工人に迄で波及し、遂に罷業を起することとなつたのであるが、一度破壊された共産黨では、まだ充分な準備が整つて居な

かつたので罷工は失敗に終つたのである。

第二 最近に於ける労働運動

國民黨の指導の下にある、労働組合に對しては、共産化を防止するが爲めに、極端な壓迫を加へて労働運動を取締つた爲め、工會としては獨立運動は絶対に不可能で、正當な要求すら發表を許されず、從てこの資本家化した國民黨に對し、漸次工人其他學生間には、反國民黨が次第に發生すると同時に、其の虚に乗じて、共産黨では頻りに潜行的活動を開始することとなつて來た。然かも労働者では如斯壓迫の中でも、頻々と罷業を起しつつあるが、これは眞實労働者の生活狀態の絶對的立場から來る自發的の傾向であるのであつた。隨て一旦起つた此の傾向は、壓迫が加はれば加はる程、益々擴大する性質を帯びて來て、次第に新しい組織へと展開する傾向を示し、反對に之が國民黨に對する労働者の、信用失墜を招く、原因をなすのであつた。

斯る労働者の最近自發的運動發生の傾向は、特に廣東及武漢、上海等に著しく、中でも上海は代表的であつた。労働者が何故にかく自發的に闘争し出したか？彼

等の屢次の失敗は彼等を如何なる傾向に導いたか？それは一九二九年一月に起つた上海南洋煙草浦東分廠の罷工に對する南洋煙草工會、華成電器工會、第一織造廠工會等八工會聯合の援助宣言が、明かに之れに答へて居る。

『全上海の工友！火は嘘に燃え付いた！一齊に起つて援助せよ！』
過去に於て、吾人は總理が吾人に指示せる、並に中央が吾人に誥誡せる所謂「工人の地位を高める爲には先づ國家の地位を高めよ」「工人の生活問題を解決することと國經濟を解決すること」は、二者同一原則即ち生産の増加にある等の標語に隨つて、吾人は毎日「勞資合作」「努力生産」を叫んだが、其の目的は資本家の營業發達によつて吾人工人も間接にその餘澤を得んとするに在つた。

だが事實は如何？吾人は完全に失敗した！南洋煙草公司浦東分廠は、數千工人の痛苦を一顧だにせずして停業し、新々公司の工友は、經理馮自由の種々非法壓迫の爲め遂に、罷工した、其他呢絨文記絲織等の工人亦相繼いで、資本家の壓迫の爲め四方に叫び出した、滿城風雨、哭泣連天、然かも一切の惡勢力は、依然として吾人に積極攻勢を取り、家は皆滅亡せんとして居る。吾人工人は、如何に地

位低落して居てもやはり生を求むる人類である。平日機械の如く働いてその膏血を資本家に捧げて居るが、結局は「狡兎死して走狗煮らる」である。

全上海の工友！彼等現在の艱難流離の慘狀は、即ち吾人將來の榜機である。吾人は當然彼等の爲に全力的援助を爲すべきである』云々

然して、一九二九年の一月、上海に起つた、主なる罷業は、上海南洋煙草公司浦東工場の三千名、上海洋服仕立職工三千五百名、上海共同租界南京路新々公司六百名、上海東亞製麻會社五百名、上海内外棉第七工場四百名等である。これらは各賃銀問題と傭雇工人の復職が原因をなし、一部は要求を容れられたが。大部分は無條件に復工し失敗して居る。

二月に入つてからも、多數の罷業があつたが、主なるものは上海内外棉、第十二工場職工五百五十名、第四工場職工一千四百名、日華紡の職工一千二百名、これらも各々待遇問題が原因であつたが、會社側の強硬な態度に依つて、無條件復工をした。

其後に於ても決して、罷業は減じはしなかつた。毎月上海だけでも、大小數十